

第2回新神戸地域ビジョン検討委員会 次第

令和3年6月10日（木）

15時00分～17時00分

場所：新長田合同庁舎（神戸県民センター）E、F会議室

1 開会

2 報告事項

県民との意見交換の実施状況について

3 協議事項

新神戸地域ビジョン骨子案について

4 閉会

（配布資料）

資料 1 新神戸地域ビジョン検討スケジュール

資料 2 県民との意見交換実施状況

（地域デザイン会議、ビジョンを語る会、未来フォーラム）

資料 3 新神戸地域ビジョンの骨子案

資料 4 新神戸地域ビジョン検討委員会設置要綱

参考資料1 新神戸地域ビジョン検討の流れ

参考資料2 令和2年度地域力指標

参考資料3 神戸地域の現況

新神戸地域ビジョン 策定スケジュール

資料 1

年度	月	検討委員会	県民との意見交換
R2	8	(8/4) 第 1 回	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> ビジョンを語る会 8/28 : 地域デザイン会議 ※地域デザイン会議併催 9/2 : 農業者 (若手) 10/6 : 神戸市小売市場連合会 10/28 : 長田で活動する若者 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地域デザイン会議 8/28 : 第 1 回 (学生・企業人合同) ※語る会と併催 9/18 : 第 2 回 (企業人G) 10/16 : 第 3 回 (学生G) 11/17 : 第 4 回 (企業人G) 2/23 : 第 5 回 (学生G) ※未来フォーラムと併催 </div> </div>
	9		
	10		
	11	個別ヒアリング 第 1 回の意見の深掘り	
	12		
	1		
	2		
3			
R3	4		
	5		
	6	(6/10) 第 2 回 骨子案の検討	○ 市町・地域団体への説明 県政懇話会 (9区で実施)
	7		
	8		
	9	素案の事前確認	
	10		
	11	(11/) 第 3 回 素案の検討	(11/13) 神戸地域ビジョンフェスティバル ※未来フォーラム併催 素案をもとに、意見交換を実施
	12		パブリック・コメント 実施
	1		
	2	(2/) 第 4 回 最終案の協議	
3		新地域ビジョン 策定	

参考：新全県ビジョン
兵庫県将来構想研究会 新全県ビジョンのたたき台となる将来構想試案の作成
将来構想試案 策定
長期ビジョン審議会 新ビジョン策定を調査審議
新ビジョン企画委員会 新全県ビジョン案を作成
議会へ骨子案の報告
本体案の策定 パブリック・コメント 実施

神戸地域デザイン会議

1 概要

県民が感じている地域課題、県民が望む生き方や地域の将来像を抽出し、検討委員会での骨子案策定の議論に繋げる。

2 構成員

①若手企業人グループ 神戸市内で働く 30～40 代の社会人 11 名

分野		所属
産 業	外資系	ネスレ日本コーポレートコミュニケーション室
	IT 系	神戸デジタルラボデジタルビジネス本部マネージャー
	洋菓子	株式会社レーブ ドゥ シェフ 専務取締役
	商店街	株式会社喜市 代表取締役
	工業	(一社)神戸市機械金属工業会青年経営研究会第 55 期会長
	医療	シスメックス株式会社
農 業	農業者 (北)	藤本園芸
		株式会社東馬場農園
	農業者 (西)	西神戸農業経営者協議会 会長
観光		御所別荘
多文化共生		NGO神戸外国人救援ネット

②学生有志グループ 神戸市内の大学に通学する大学生 10 名 ※学年は参画依頼時

大学名	学部
甲南大学	文学部 社会学科
神戸親和女子大学	発達教育学部 福祉臨床学科
神戸松蔭女子学院大学	教育学部 教育学科 幼児教育専修
神戸常盤大学	保健科学部 看護学科
神戸学院大学	現代社会学部 社会防災学科
神戸大学	農学部 食料環境システム学科
神戸市外国語大学	外国語学部 国際関係学科
兵庫県立大学	経営学部 組織経営学科
流通科学大学	人間社会学部 観光学科
甲南女子大学	人間科学部 生活環境学科

3 開催実績

回	日付	テーマ・論点・検討内容等
1	8/28	第1回地域デザイン会議（学生G+企業人G）（ビジョンを語る会と併催） 大学生と各分野の若手の意見聴取【テーマ設定】 「今、神戸で暮らしていて（通学、仕事をしていて）これから伸ばしていきたい・残していきたいこと、又は、解決していく必要がある課題だと思うこと」
2	9/18	第2回地域デザイン会議（企業人G） 各分野の若手からさらなる意見聴取【テーマの深掘り】 「地方と都市の関係、企業間連携」
3	10/16	第2回地域デザイン会議（学生G） 大学生からさらなる意見聴取【テーマの深掘り】 「神戸の都会的な魅力、自然環境がもつ魅力は何か。また、その魅力を活かして、30年後の神戸はどうあって欲しいと思うか。」
4	11/17	第3回地域デザイン会議（企業人G） 各分野の若手からさらなる意見聴取【テーマの深掘りと取りまとめ】 「30年後、神戸にどうなっていてほしいか。そのためにこれから（県民が）できること・すべきことは何か。」
5	2/23	未来フォーラム（第3回地域デザイン会議（学生G）と併催） 大学生と各分野の若手の意見のブラッシュアップ

4 主な意見

○暮らし

- ・ 実際の距離よりも、都市部と田園部の距離が開いている気がする
- ・ 地方と都市が物理的な距離を意識しないですむような、シームレスなつながりがとれている関係になってほしい（“神戸”が都市だけを指すのではない）
- ・ 都会は便利というイメージがあるが、過疎地域と呼ばれるところでの将来の生活が想像しにくい
- ・ セカンドハウスやリモートワークをしながら田舎で暮らすなど、色んな生活様式を提案できるモデル地域のような役割を果たすこともできるのではないか
- ・ 地元の文化性や歴史性が凝縮されたものを大切にし、文化的・歴史的で、個性豊かな地域になってほしい

○人づくり

- ・ 神戸に住みたいという人や神戸が好きだという人を増やす必要がある
- ・ 神戸ならではの文化や歴史を小さいときから、触れる機会というのを増やしていく必要がある
- ・ 高い能力を持った高齢者が活躍する場所を増やす
- ・ 神戸で子供を育てたいと思える町にしたい

○農業

- ・生産者と消費者の繋がりを持つような姿勢は残していくべき
- ・農業自体に注目は集まっているが、実際に農業で働くというところまではつながっていない
- ・作るだけでなく販売まで一貫してやるのが面白いところだが、規制が厳しいため、やりたい事ができない
- ・農家と飲食業が連携することで、様々な作物がそれなりに作れる神戸ならではの食文化が作れる可能性を高める
- ・地域の子供たちが、その地域に誇りを持つ、その地域の産業（農業）に誇りを持つきっかけ作りが、この先の20年、30年先に繋がっていく

○産業

- ・同業種連携における地域の中間団体が弱体化している
- ・もっと気軽に企業間だけでなく、産官学の交流を含め、深めていける時代になってきている
- ・各企業が交流する場を設け、自然発生的に企業間連携が生まれる仕組みを作る必要がある
- ・非営利団体が軸となり、異業種のマッチングを行えば新たな産業が生まれるのではないか
- ・新たなサービスや商品作りに挑戦したいという環境を育てる

○国際

- ・神戸全体でみても色々な国籍の方が住んでいる
- ・日本に来る外国人の方の流れも時代によって変わっている
- ・多文化ルーツを持つ人たちが神戸の住民として、神戸がふるさとになっていく環境になっていく
- ・異文化が溢れる国際色豊かなまちづくり、より多様性を認め合いながら暮らしやすい町にしたい

○観光

- ・小さい個人営業をしている店にスポットを当てる
- ・空きスペースを有効活用して観光客や住人を呼び寄せる
- ・国内旅行者の好みに合うような、個人でもできる体験型の観光を伸ばす
- ・海外からの知名度が高くないので、宿泊までしてもらえる外国の観光客を狙った地域づくりやプロモーションが必要
- ・(地元の)魅力は感じるだけではなく、それを他の人に伝えていかなければいけない

ビジョンを語る会

1 概要

地域の様々な団体や地元有志グループのメンバーなどが集まり、地域の課題や将来像について意見交換を行うことで、新地域ビジョンの検討素材を収集するとともに、ビジョンづくりへの機運醸成を図る。

2 開催実績：4回 計50人参加

日時	場所	対象者	所属等	人数
8/28	神戸市	デザイン会議メンバー	神戸大学ほか9大学、 神戸デジタル・ラボほか10企業等	18
9/2		青年農業士等	施設野菜（イチゴ・トマト、葉物）、 施設花卉、酪農、肉用牛等	8
10/6		神戸市小売市場連合会	腕塚食材商業協同組合、大安亭市 場協同組合ほか	7
10/28		長田地区の若手起業家等	西村川魚店、福祉事業型専攻科エ コール KOBE、駒林神社、漁師ほか	15

※別途、区ごとの県政懇話会でもビジョンに関する意見交換を実施（7/14～8/31、計9回）

3 主な意見

（地域デザイン会議メンバー）

- ・神戸の農業には生産者と消費者の繋がりを感じる機会が多い
- ・異文化があふれる国際色豊かで、より多様性を認め合いながら暮らしやすい地域になればいい
- ・高い能力を持つ高齢者が活躍する場所が増えていくといい
- ・歴史はまとめるだけでなく、教えていくことが重要
- ・神戸ならではの文化や歴史を小さいときから触れる機会を増やす必要がある
- ・リモートワークなど働く場所を選ばないことで、田舎で生活をしながら町の仕事ができる環境が整いつつある
- ・魅力は感じるだけでなく、他の人に伝えていかなければいけない

（青年農業士等）

- ・高校生のインターシップがなくなり、地域との交流が減っている
- ・子供たちに、もう少し農業を身近に触れてほしい
- ・野菜や生鮮食品は大事だと小さいときから教育することで、農業に対して興味を持ってもらい、雇用に繋がるといい
- ・地元の人たちが神戸産のものを良いから買いたいと思ってもらうために、都市近郊という強みをもっと生かすことができないか
- ・子供たちの農業体験は、昔ながらの大変な農業のアピールになっているかもしれない

(神戸市小売市場連合会)

- ・市場は各地域のコミュニティスペースでもある
- ・物を売るという役割もあるが、コミュニティとしての役割は人でしか果たすことが出来ない大事な役割である
- ・商店街の商売そのものの後継者がおらず、空き店舗ができていく
- ・今後 30 年経っても、人と人のふれあいはとても大事になってくる
- ・どこでも買い物が出来るなかで、誰の店で買いたいかを動機付けることは、人にしかできない
- ・ビジョンでは暗い話題ではなく、楽しい話ができるようにしてほしい

(長田で活動する若手起業家等)

- ・コロナにより、自分なりの生き方について考え出した人が多いと感じる
- ・神戸の案件は神戸にいるクリエイターで賄えるようにしたい
- ・神戸は兵庫県のゲートシティである
- ・ライフスタイルの多様化により、自分にとって何が必要なのか、どんな生活をしたいかという基準で住む場所を選んでいるが、神戸は選択肢が豊富のため、いいこと取りができる魅力がある
- ・地元の人が良い距離感でほっておいてくれるため、他の市町からくる人が多い気がする

地域未来フォーラム

1 概要

ビジョン委員をはじめ、広く一般県民を集めたフォーラムを開催し、新全県ビジョン骨子案（将来構想試案）と新地域ビジョンの検討状況（地域デザイン案等）を発表、県民との意見交換を行う。

2 開催実績：2/23 44人参加（ビジョン委員27人、デザイン会議7人、一般10人）

・テーマ

神戸のいいところ どんどこ？

・内容

他の地域の人たちに自慢できる神戸の魅力等を出し合い、30年後のこれからの神戸の姿を話し合う。

[グループワークのテーマ]

- ① 人づくり（教育、青少年育成、シルバーパワー）
- ② 暮らし（子育て、防災、多文化共生）
- ③ 自然（自然保護・活用、農業）
- ④ 交流（地域活性化、歴史・文化）

3 主な意見

1班（人づくり） 「学ぶ力が人づくり」

（いいところ）

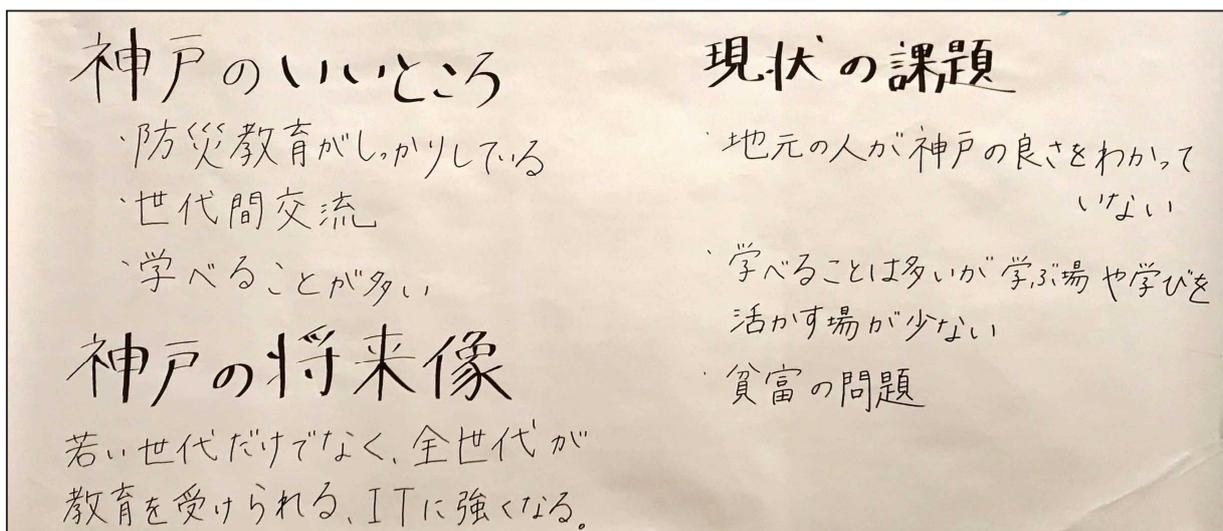
- ・阪神淡路大震災の経験を生かし、防災教育がしっかりしている
- ・高齢者が活躍していることで、世代間交流が生まれている
- ・外国人市民が多いことや災害の経験のある地域であるので学ぶことが多い

（課題）

- ・地元の人が神戸の良さを分かっていないこと
- ・学ぶことは多いが、学ぶ場や学びを生かす場が少ないこと

（将来像）

- ・若い世代だけでなく全世代が教育を受けられてITにも強くなるということ



2班 (暮らし) キャッチコピー「BE KOBE」

(いいところ)

- ・若者が生きやすい

(課題)

- ・若者が集まるスペースがあればもっといい

(将来像)

- ・働く場所だけでなく、起業しやすい環境を作る。
- ・さらなる多様性のために、都市部と田園部が近接していることを活用できたらいい
- ・国籍や宗教を含めて、多様性に寛容な地域でありたい

①若者が生きやすい

- ・若者が集まるスペースがほしい。(フリースペース、図書館など)
- ・若者が働きやすい場所。
- ・起業しやすい環境を作る。
- ・敗者復活できる場所。(チャレンジ!) (失敗しても立ち上がれる)

②更なる多様性

- ・都市部と自然の近接活用。
- ・宗教の多様性を寛容拡大。
- ・六甲山と海を活かす。
- ・障害者支援を拡張。
- ・ユニバーサルデザイン **普及**。
- ・産業遺産を活かす。

3班 (自然) キャッチコピー「みんなの庭! 神戸」

(いいところ)

- ・都市と自然の距離が近い
- ・山・海・川それぞれの幸を味わうことができ、食が豊かである
- ・他地域に行かなくても、神戸の中で自然と触れあうアウトドアも可能

(課題)

- ・住む人が神戸の長所を理解しきれていないこと

(将来像)

- ・都市と農村が交流する機会を増やすこと (地産地消、教育)

神戸のいいところ

都市 + 農業 → 消費者距離 = 交通網

食 = 海 + 川 + 山

神戸の将来像

- 都市と農村の交流
- 自然に優しい産業
- 都会と自然の併存

現状の課題

- 自然への意識が低い
- 距離の近さが活かされていない
- 景観の良さを見せられていない

4 A班 (交流) キャッチコピー「神戸完結型の地域づくり」

(いいところ)

・自然や食が豊かで、ハイカラな文化があり、住みやすい歴史のある地域である (課題)

- ・マンションが増えたことで住民同士の関わりが減っているように感じる
- ・神戸で学んでも神戸に就職先がないこと

(将来像)

- ・もっと産業の活性化ができればいい
- ・神戸に住む人が神戸の魅力を知って、神戸で遊んだり住み続けられること

神戸のいいところ

- ✓ 自然豊か
- ✓ ハイカラな文化
- ✓ 住みやすい
- ✓ 歴史ある
- ✓ 食の楽しい町

現状の課題

- ✓ 観光が弱い
- ✓ マンションが増えて → 住民のつながりが減少
- ✓ 災害に弱い
- ✓ コロナで... オフィス街の人手減
- ✓ 神戸で学ぶ、神戸で就職 できるように
- ✓ 地産地消
- ✓ 海産のゴミ

☆ 行政の力も必要

☆ 神戸市民が神戸を盛り上げる!

→ まちづくり
- 観光
- 暮らし

→ 分野で神戸完結

神戸の姿将来像

→ 産業 (医療・酒・神戸ビーフ等) の活性化
起業できる環境 (学び等)

4 B班 (交流) キャッチコピー「バーチャルもいいけどリアルもね。それぞれに役割があり交じり合える市民総活躍 CITY 神戸」

(将来像)

- ・地域の繋がりが減ってきているので、縦と横の繋がりを増やしていきたい
- ・都市部と田園部のいいところを楽しむことができる2重の生活ができるといい
- ・ITの活用も大切だが、誰1人取り残さず、人が中心となって生活することが必要

未来像 (ゆめ)

- 人に優しいIT
- 行政主導

課題 (種の方)

- 差別を生み出すIT化
- 都市部と農村部の連携
- 誰一人取り残さない
- 神戸の特色を生かす
- ITに支配されない
- 南海トラフを乗り越える

神戸の神戸 (花の種)

○ 震災を乗り越える

○ 国際 港町 海・山

新神戸地域ビジョン 骨子案

1 はじめに

(1) これまでの神戸地域ビジョンについて

目指す姿：楽しいまち・神戸

(2) 新神戸地域ビジョン策定の経緯

- ・神戸地域ビジョン策定から 20 年、改訂 10 年が経過
- ・社会情勢の変化（深刻な人口減少、技術革新の急速な進展等）
- ・人々の暮らしや価値観の変化

(3) 地域ビジョンの定義

○神戸地域のめざすべき将来像

○地域の将来像と行動目標

- ・人口減少等の社会変化の様相を地域の特性に合わせて分かりやすく「見える化」し、住民が共有できる「なりたい姿」を大胆に描き、中長期的な地域づくりの方向性を示すもの
- ・行政主導型の「計画」ではなく、住民が自ら描き、その実現を目指そうとするもの
- ・「あるべき姿」及びそこへ至るプロセスで構成

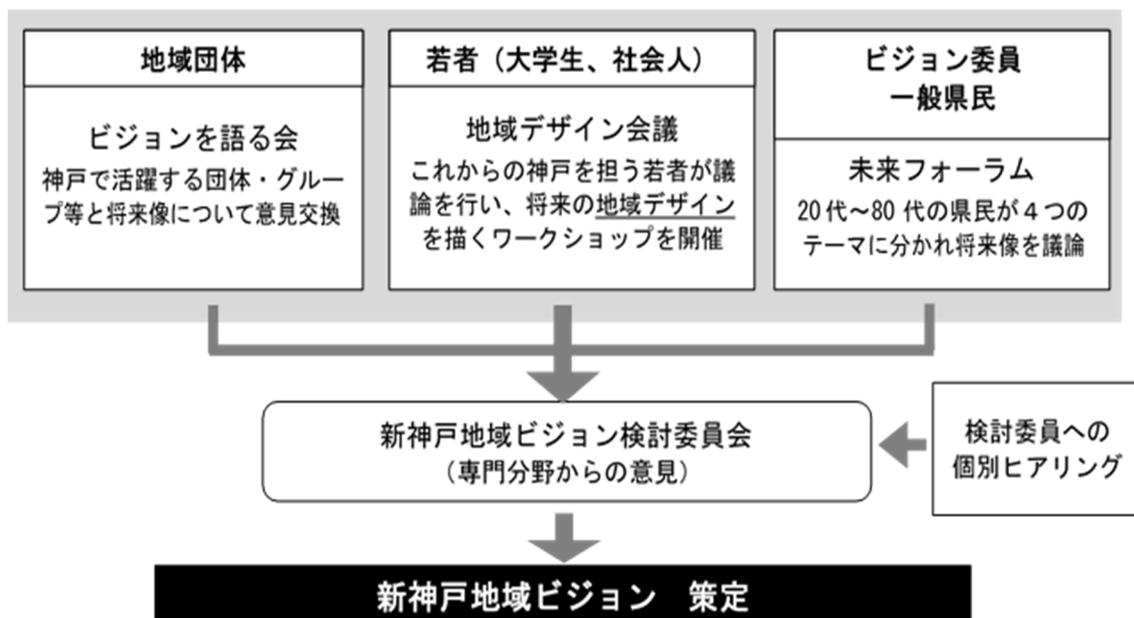
(4) 検討方法

①新神戸地域ビジョン検討委員会（新地域ビジョンの策定主体）

地域の資源や課題の調査、新地域ビジョン案の検討・起草等を実施

②県民との意見交換

県政の基本姿勢である「参画と協働」により新ビジョンの策定を進めるため、意見交換の場を設け、より多くの県民の意見を検討委員会での議論に反映



③県民との意見交換におけるキーワードの整理と構成

<観点>

- ・神戸の魅力、特徴、固有性
- ・今後も大切にしていきたい要素
- ・現在の課題、問題
- ・新しい地域ビジョンに含まれるべき要素、言葉、概念

2 神戸地域を取り巻く状況

(1) 社会における価値意識の変化

①個性・多様性重視

- ・個々の選択の自由度の高さが重視される社会
やりたいことができる自由／なりたいものになれる自由
- ・個性、多様性を尊重する社会

②脱中心化

- ・物理的な空間構成における脱中心化
都市から地方へ、多核化、風土・固有性重視
- ・概念的な社会構造における脱中心化
階層型・ピラミッド型構造（硬直性）からネットワーク型・モジュール型構造（柔軟性）へ

③シームレス化・ボーダーレス化

- テクノロジーの進化によって可能となる生活空間のシームレス化・ボーダーレス化
- ・仕事と生活：ワークライフミックス
- ・仕事と観光：ワーケーション
- ・人間とAI：機械学習をベースとした意志決定
- ・所有関係：シェア経済
- ・空間：VR

(2) 神戸地域をとりまく社会環境の変化

①人口変動

- 人口減少、少子化、高齢化
- リサイズ、リスケール、リフォーム 「人間サイズのまち」 へ
- 人口偏在化（過疎・過密の同時進行）、都市の活力・魅力の減退、福祉コストの増大

②産業構造・就業構造の変化

- サービス産業への偏重、非正規雇用の増加
- ヘルスケア・医療産業の集積、実験都市としての実践・実装志向を活かすチャンス
- 中小製造業の衰退、雇用の流動化・不確実性の増大、産業構造の転換コスト

③多文化共生の進展

- 転入・定住外国人の増加、出身国の変化
- 世界とつながる機会の増大、多文化共生社会・グローバル都市としての魅力向上
- 就労環境・雇用条件の格差拡大、地位達成機会（教育・職業）の不平等の顕在化

④地域のつながりの変化

- 地域コミュニティ・地域自治の枠組みのゆらぎ
- ボランティア、市民活動への関心の高まり、重層的な中間団体の存在
- 地域自治を担う団体・活動の担い手不足・高齢化、居場所を失う人々

⑤自然環境との共生のあり方の変化

- 自然の利活用、地球温暖化、南海トラフ地震
- 都市と自然の近接化・連続性（居住／就労、循環型都市）、農都として魅力向上
- 自然災害に対する備え（＝都市部における地域防災力）を維持することの困難さ

3 新神戸地域ビジョン

(1) あるべき姿

「みんなの希望にフィットするまち・神戸」

- ・地域が豊かになる＝そこに住んでいる人が幸せになる
- ・暮らす人の「幸せ」「幸福」「希望がかなう」

神戸は、都市の成り立ちからして歴史的伝統から解放されていたゆえの外向性と進取の気性、震災の経験によって培われた支え合いの精神・市民力を併せ持っている。また、海のそばで、山に近い場所で、適度な都会で（田舎で）暮らしたい、という人々のライフステージやライフスタイルによって変わる「その人に合った豊かな暮らしができる環境」がすべて揃っている。

<県民からの意見>

- ・「海、街、山がつながる 人がつながる」
- ・「常に新しい何か生まれる 暮らしのなかにドキドキやワクワクがある」
- ・「暮らしている人が幸せになる 訪れた人が住みたくなる」

(2) 構成要素又はプロセス

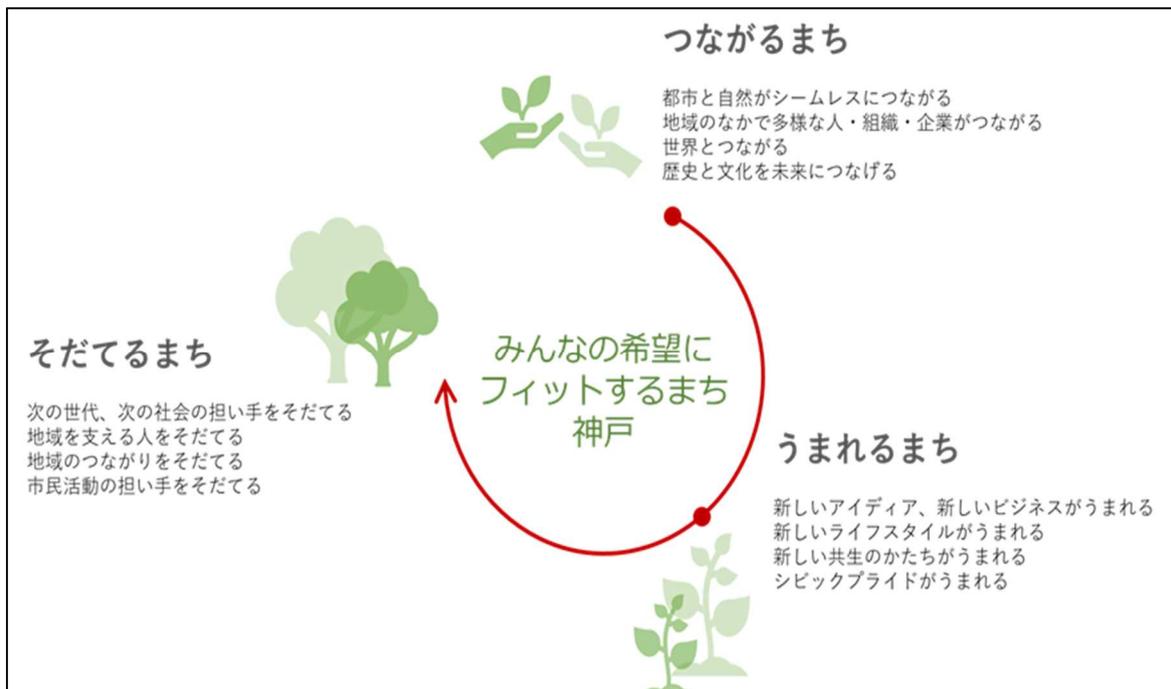
「つながるまち／つながる・つなげる」

「うまれるまち／うまれる・うみだす」

「そだてるまち／そだてる」

- ・あるべき姿を達成するための手段として、神戸に今ある資源を「つなげて」、新しいものを「生み出し」、それを「育て」ていく
- ・神戸に固有の歴史と文化（価値）を30年後につなげる・新しい歴史と文化をうみだす・それらを長くそだてる

新神戸地域ビジョンのコンセプト



(3) 3つの構成要素／プロセス

①つながるまち／つながる・つなげる

- ・神戸には自然と都会のほどよいバランスのなかに豊かな資源が豊富にあり、これらがつながって、点から線へ、線から面になることで、神戸がもつポテンシャルがより発揮される
- ・都市と自然が今よりも近い関係になること、生産者と消費者が顔のみえる関係になることで、神戸の豊かさをもっと実感できる
- ・身近な課題を解決するために、組織や団体の境界を超えて様々な人々がつながることができれば、今よりもっと地域の力を高めることができる
- ・豊かな自然と暮らしやすい街の近さ、外向性と進取の気性といった神戸の魅力を世界に発信するとともに、この土地固有の歴史と文化、風土を教育や観光を通して未来に伝える

ア) 都市と自然がシームレスにつながる

○地理的・空間的に自由な移動・交流ができる

○次世代の「農都」：「農」と都市生活の豊かな関係を深める

- ・神戸にある豊かな自然と暮らしやすいサイズの街の間で地理的・空間的な制約から解放された自由な移動、交流ができるようになれば、神戸の魅力はもっと高まる
- ・消費者も農業がエネルギー循環や環境保全に果たす役割を学び、生産者とともに地域の環境を支えていく気持ちをもつことで、次世代の「農都」の姿が見えてくる

イ) 地域のなかで多様な人・組織・企業がつながる

○人、組織が自分たちの地域のことを考える

○地域の課題を知る、課題解決に関わる機会をつくる

- ・同じ地域に暮らすバックグラウンドの異なる様々な立場の人々で自分たちの地域のことを一緒に考える機会をつくる、増やす
- ・地域の課題を知る、課題解決に関わるきっかけを多世代に広げる

ウ) 世界とつながる

○神戸の豊かさと固有の文化を発信する

○神戸を訪れたいくなる、神戸で働きたいくなる

- ・神戸に暮らす人みんながそれぞれのやり方で、神戸がどんなまちなのか、どんな暮らしがあって、どんな人たちがいるのか、神戸ならではの良さとは何かを見つけて、発信していくことによって、神戸を訪れたいくなる、神戸で働きたいくなる人が増える
- ・観光、ビジネス、移住、様々なかたちで世界とのつながりが広がることで、神戸の魅力もより高まる

エ) 歴史と文化を未来につながる

○学びのなかで自分たちのまちとつながる・まちを知る機会をもつ

○地域資源の保護・活用を通してまちの今までとこれからを考える

- ・あらゆる世代の人々が、それぞれの学びのなかで自分たちが住んでいるまちとつながる・まちを知ることができる機会がもっと増えてほしい
- ・身近な文化財、地域の歴史を語る貴重な財産の保護や生活のなかでの利用を通して自分たちのまちの今までとこれからを考え、将来につなげる活動が広がることで人々の間に新しいつながりも生まれる

②うまれるまち／うまれる・うみだす

- ・人々や組織・団体の間の自由なつながりは新しいアイデアに基づく起業やサービスを生み出すプラットフォームになる
- ・多様なアクターが参加する柔軟でしなやかなつながりから生み出される新しいサービスやツールによって、神戸が「住む」「働く」「学ぶ」「ケアする(される)」「遊ぶ」「貢献する」といった様々な生活上のニーズを、一人ひとりが希望するライフスタイルに合わせて実現させてくれるまちになってほしい
- ・神戸でどのように暮らしたいか、何をしてみたいか、すべての人の希望を叶える新しいアイデアが常にどこかで生まれるまちになることで、誰一人取り残さない、住む人みんなが神戸のことを、地域のことを自分のこととして考えることができる次世代の共生社会が実現できる

ア) 新しいアイデア、新しいビジネスがうまれる

- 新しいアイデアを実験する、実践する、実装するチャンスを通して起業できる
- 多様なプラットフォームから新しい事業が生まれる
 - ・新しいアイデアを実験する、実践する、実装するチャンスを活かしてやる気さえあれば起業できるまちになることで、人々の幸せに貢献するビジネスが神戸にたくさん生まれることを期待したい
 - ・多様なバックグラウンドをもった人たちが出会えるプラットフォームがまちのあちこちにできれば、新しいアイデアの実現もよりスムーズとなる

イ) 自分らしいライフスタイルがうまれる

- すべての人が望む自分らしいライフスタイルを実現できる
- 様々なライフコースのなかで人々がもつ希望がかなう
 - ・お互いの考え方や価値観、文化的背景、人種・民族、SOGI、主義・思想を尊重しあうことで、すべての人が望む自分らしいライフスタイルを実現できるまちになってほしい
 - ・ジェンダーを問わず様々なライフコースを歩むすべての人の仕事と生活のバランス、ケアのあり方、社会との関わり方に対する願いをかなえることがまちの幸福につながる

ウ) 新しい共生のかたちがうまれる

- すべての人を社会のメンバーとして迎え入れる
- あらゆるハンディキャップを抱えた人々を包摂する
 - ・様々なルーツをもつ人々を短期的に受け入れる、生活を支援するだけでなく、長く共に地域で学ぶ、働く、暮らすメンバーとして包摂して支え合うという意味での多文化共生が望まれる
 - ・国籍や人種、民族に限らず、社会的弱者、あらゆるハンディキャップを抱えた人々を含めてすべての人を排除や孤立から擁護するまちになってほしい

エ) シビックプライド（愛着と誇り・当事者感覚）がうまれる

○地域のことを「自分たちのこと」として考える

○神戸のもつブランド、地域がもつ価値を再発見する

- ・神戸に暮らす誰もが、住んでいるまちに愛着と誇りをもち、まちのことを自分のことのように考えることができる地域になってほしい
- ・地域のことを他の人たちと一緒に「自分たちのこと」として考え、神戸がもつブランド、価値をそれぞれの生活のなかで少しずつ見つけてみることから始まる

③そだてるまち／そだてる

- ・2050年、そしてさらにその先の神戸を担っていく人々を育てていく仕組みや工夫を考えることが大切
- ・まちづくりや地域コミュニティ、その土地ならではのモノ・コトに関心をもつ人を育てる、そして様々なかたちで実践的な活動に導くことを通して、世代を超えて多くの人々が地域の課題の解決、支え合いを担っていけるようになることを期待したい
- ・神戸が子どもから老人まですべての人にとって居心地の良い場所に、安心できる場所になってほしい
- ・神戸の歴史と経験のもとに育まれてきた市民活動、災害への備え、利他・ボランティアの精神を次世代に引き継ぎ、新しいメンバーを受け入れていくことを通して公共の担い手を育てることが求められる

ア) 次の世代、次の社会の担い手をそだてる

○地域のなかに子どもたちが安心できる居場所をつくる

○神戸だから学べることを通して地域の担い手を育てる

- ・神戸が子どもに、子育てをする親に寄り添うまちになってほしい
- ・学校で、あるいは学校以外の場所で、地域の様々な人と関わり合いながら、自分たちが住んでいるところに関心をもつ機会が増えることを期待したい
- ・どこでも学べるだけでなく、神戸だから学べることを大切にしてほしい

イ) 地域を支える人をそだてる

○地域のなかでつながりをつくる人を増やす

○まちづくり、コミュニティの維持に関心をもつ人、関わる人を育てる

- ・自分たちが暮らす地域のことを誰かに任せっきりになるのではなく、身の回りにあるモノやコトに関心をもつ人、実際に関わる人を育てること、そしてそういった人を育てる仕組みが続くようにしていく
- ・地域を支える人たちがつながる場をつくる、異なる立場の人たちの活動をコーディネートできる人を増やしたい

ウ) 地域のつながりをそだてる

○神戸に根付いてきた地域のつながりに新しい人を迎え入れる

○地域の人々が支え合える環境、普段の生活のなかに息づくつながりを育てる

- ・いまあるつながりをそのまま残すのでもなく、まったく別のつながりを新たに作るのでもなく、地域に関わりたい、同じ地域に住む人と交流したいとい

う気持ちのある人を迎え入れながら、ゆるやかなつながりを育てたい

- ・まちづくり、お祭り、教育、環境、防災など様々なテーマで地域の人々がつながる場、まとまる機会があってほしい

エ) 市民活動の担い手をそだてる

- 自分たちのまちのことを自分たちで解決できる公共の担い手を育てる
- サポートする人、される人という役割を固定化せず、相互扶助を循環させる
 - ・自分たちで社会的な課題を解決することに関心がある人を、実践を通して活動の場に導くことで市民活動の担い手、公共の担い手が育っていく
 - ・サポートする／される、何かを提供する／されるという役割を固定化することなく、神戸に暮らす人みんなが誰かの役にたつことができるという相互扶助の循環の仕組みを育てる地域になってほしい

4 ビジョンの種、ビジョンの芽

(1) 30年後に「普通」「当たり前」になってほしいこと

① [つながるまち] への試み

○ROKKONOMAD → 「都市と自然がシームレスにつながる」

神戸市では、六甲山上スマートシティ構想のもと、山上のビジネス交流拠点となる「共創ラボ」のプロジェクトを勧めており、森の中にある泊まれるシェアオフィス「ロコノマド (ROKKONOMAD)」を開設している。

○ANCHOR KOBE → 「地域のなかで多様な人・組織・企業がつながる」

多様なコラボレーションプログラムを通して、産官学の連携・交流を促進し、社会・企業の課題解決や人材育成、情報発信などを進める。

② [うまれるまち] への試み

○登下校の社会的見守り → 「新しいアイデア、新しいビジネスがうまれる」

登下校に使用する六甲ケーブルの乗降駅に顔認証システムを設置し、子どもが改札を通過した際に保護者があらかじめ登録した連絡先に通知が届く。地理的特性に合わせて社会的課題をテクノロジーで解決していく試み。

○「こうべ子どもにこにこ会」 → 「新しい共生のかたちうまれる」

外国人の子ども向け学習教室。多様な文化や社会背景をもった子どもたちへの日本語・教科・母語学習や、学校を含む生活面でのサポートを通して居場所づくり等に取り組んでいる。

③ [そだてるまち] への試み

○ユースワーカー講習会 → 「次の世代、次の社会の担い手をそだてる」

専門的な施設で働く職員や教員向けにユースワーク (ユースワーカー) とは何かという初級編の講習を開催。

○地域共生拠点・あすパーク → 「地域のつながりをそだてる」

阪神淡路大震災から25年を機に、灘区大和公園内に建設した民設民営の施設 (CS神戸が運営主体)。オープンスペースとオフィススペースが整備されている。地域コミュニティの脆弱化による生活課題を「つながる」ことで解決し、だれもがいつまでもいきいきと暮らしていくため、様々な企業や団体と連携したプログラムを実施・展開している。

新神戸地域ビジョン検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 神戸地域のめざすべき将来像を示す新たな地域ビジョン（以下「新地域ビジョン」という。）を多様な主体の参画により策定するため、新神戸地域ビジョン検討委員会（以下「検討会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 社会潮流、地域の課題や将来像に関する調査研究
- (2) 新地域ビジョンの策定
- (3) その他新地域ビジョンの策定に必要な事項の検討

(組織)

第3条 検討会は別表に掲げる委員で組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 検討会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。
- 4 委員長は、会務を総理し、検討会を代表する。
- 5 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、副委員長が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会の会議は、委員長が招集する。ただし、初回の会議は、神戸県民センター長が招集する。

- 2 委員長は、必要に応じて委員を指定して招集することができる。
- 3 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。
- 4 委員長が認めるときは、委員が指名する者を代理として出席させることができる。
- 5 事故その他やむを得ない理由により会議を開催できないと委員長が認める場合、委員長は個別に委員の意見を聴取し、会議の開催とすることができる。

(部会)

第6条 委員会に、その所掌事務を分掌させるために、部会を置くことができる。

- 2 部会に属すべき委員は委員長が指名する。
- 3 部会には部会長を置く。
- 4 部会長は部会に属する委員の中から委員長が指名する。
- 5 部会長の職務及び部会の会議については、第5条第2項から第4項を準用する。

(謝金)

第7条 委員及び第5条第3項に定める者が、検討会及び部会の職務に従事したときは、別に定めるところにより謝金を支給する。

(旅費)

第8条 委員及び第5条第3項に定める者が、検討会及び部会の職務に従事するため旅行したときは、兵庫県職員等の旅費に関する条例（昭和35年兵庫県条例第44号）の規定により旅費を支給する。

(事務)

第9条 検討会の事務は、神戸県民センター県民交流室において処理する。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和2年6月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

(要綱の失効)

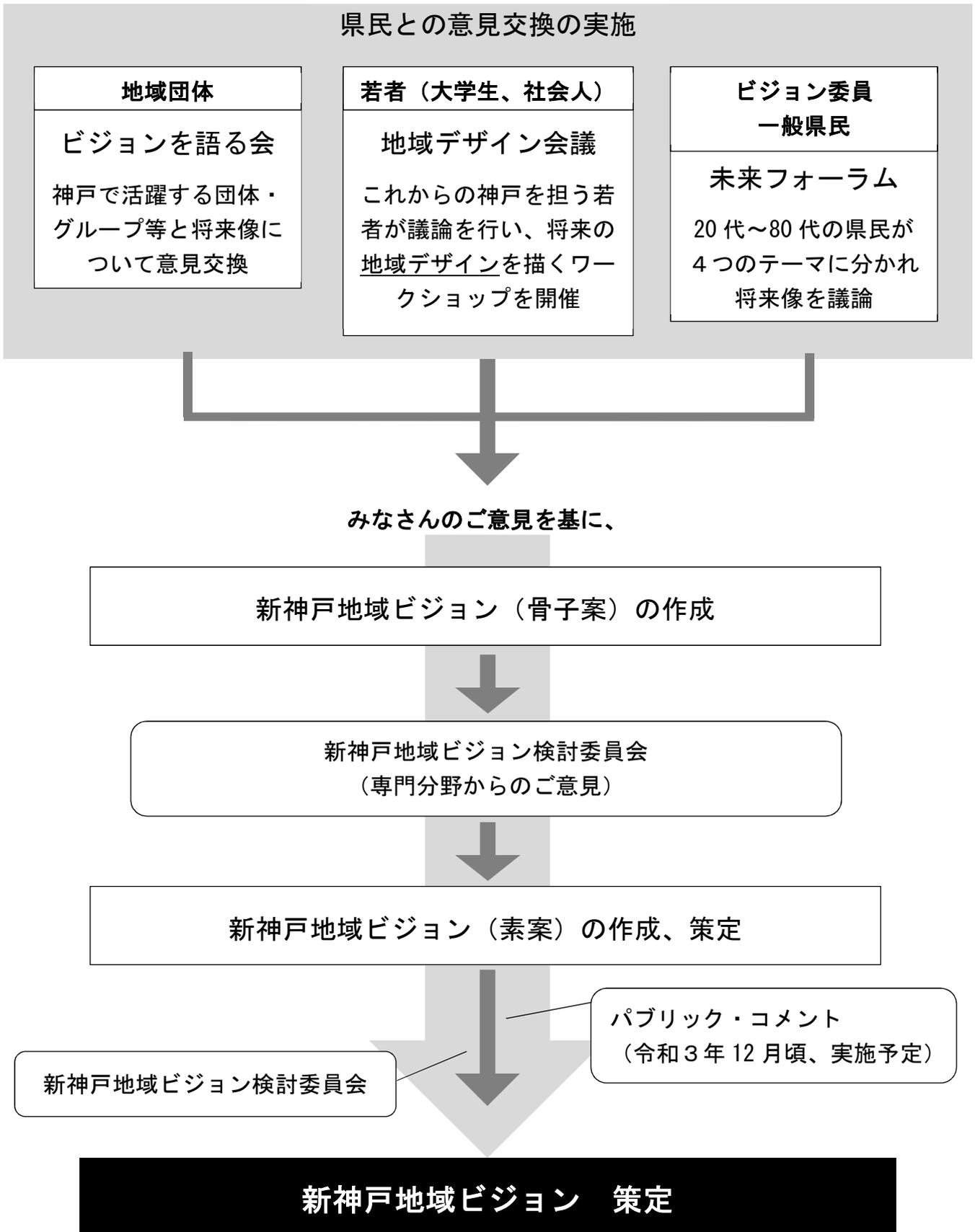
- 2 この要綱は、令和4年3月31日限り、その効力を失う。

別表（第3条関係）

氏名	所属・役職
乾 美紀	兵庫県立大学環境人間学部教授
井上 哲	第10期神戸地域ビジョン委員長
岩佐 光一郎	神戸市自治会連絡協議会会長
梅澤 章	神戸市企画調整局政策調査課長
児玉 充弘	JA兵庫六甲支店統括本部神戸地域統括統括本部長
関口 幸明	神戸商工会議所理事・地域政策部長
辻 幸志	NPO法人こうべユースネット理事長
徳永 恭子	株式会社神戸新聞社編集局次長
永吉 一郎	株式会社神戸デジタル・ラボ代表取締役
飛田 敦子	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸事務局長
星 敦士	甲南大学文学部教授
宮定 章	認定NPO法人まち・コミュニケーション代表理事
森田 祐子	神戸市婦人団体協議会副会長
渡辺 元樹	一般財団法人 神戸観光局観光部長

(五十音順)

新神戸地域ビジョン検討の流れ



《神戸地域：地域力指標》

参考資料2

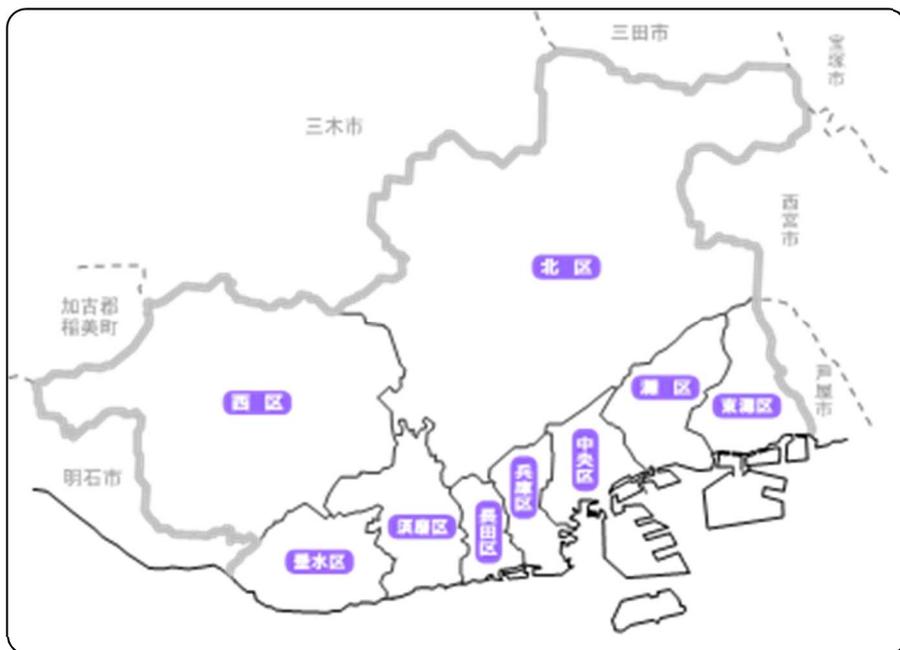
	項目	基準年・基準数値	H30	R1	R2	最新年と基準年の比較
自律社会のしくみ 夢提案【3.4.5】 まちづくりのしくみ 夢提案【6.7.8】	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している又はしてみたい人の割合(%)	(H26) 16.5	33.0	34.3	31.8	↑
	住んでいる地域にこれからも住みたい人の割合(%)	(H23) 67.8	85.0	78.6	75.6	↑
	住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合(%)	(H23) 60.3	67.6	68.0	70.5	↑
	ボランティア等で社会のために活動している又はしてみたい人の割合(%)	(H25) 14.1	38.3	33.3	36.0	↑
安全・安心な神戸の暮らしづくり 夢提案【9.10】 災害・犯罪等から暮らしを守る—安心・安全なまち神戸をつくりましょう 支援を必要とする人たちが安心・健やかに生きがいを持って暮らせるまち神戸をつくりましょう	家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合(%)	(H24) 34.4	36.4	42.9	48.2	↑
	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合(%)	(H23) 57.0	76.4	84.1	82.9	↑
	住んでいる地域は高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合(%)	(H25) 60.6	48.1	47.3	57.2	↓
	住んでいる地域は障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合(%)	(H25) 33.3	30.3	28.2	31.5	↓
次代を担う神戸の人づくり 夢提案【11】 神戸の子ども・青少年を健やかに育て・見守りましょう	住んでいる地域の子どもは伸び伸びと育っていると思う人の割合(%)	(H23) 62.2	66.3	66.9	65.6	↑
	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合(%)	(H23) 23.4	61.4	58.9	60.6	↑
	住んでいる地域では心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合(%)	(H25) 17.9	30.8	35.9	32.6	↑
農都・神戸 夢提案【12】 「農」と結びあえるまち—「農都・神戸」を築きましょう	身近に環境のことを知る仕組みが整っている人の割合(%)	(H23) 25.1	20.8	25.4	27.3	↑
	地元や県内でとれた農水産物等を買っている人の割合(%)	(H23) 59.2	67.9	69.9	65.8	↑
	近郊農業(市民農園、イチゴ狩り等)を体験する機会がある人の割合(%)	(H25) 25.0	32.0	27.3	31.2	↑
	地元や県内でとれた農林水産物は安心だと思ふ人の割合(%)	(H25) 81.2	72.1	81.9	77.5	↓
自然との共生 夢提案【13.14】 循環型のライフスタイルづくりを神戸から進めましょう 自然との共生のシンボル・私たちの「六甲山」を活かしましょう	ごみの分別やリサイクルに協力している人の割合(%)	(H23) 93.5	93.3	93.4	92.8	⇒
	この1年間に、仕事やレジャーを問わず、森や山に入ったことがある人の割合(%)	(H23) 49.3	44.6	36.1	37.4	↓
	住んでいる地域の自然環境は守られていると思う人の割合(%)	(H23) 54.2	49.5	50.5	52.9	↓
	六甲山系を身近に感じる機会(山登り、イベント、六甲山の施設利用等)がある人の割合(%)	(H25) 30.7	35.1	29.0	33.3	↑
グローバルな魅力 夢提案【15】 神戸らしいグローバルな魅力を育て、発信しましょう	外国の文化に触れて感動したことがある人の割合(%)	(H23) 45.6	39.6	45.9	43.1	↓
	暮らしの身近なところで外国人県民が増えることはよいと思う人の割合(%)	(H23) 33.8	32.8	34.4	42.0	↑
	外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合(%)	(H25) 13.8	48.1	56.0	39.5	↑
地域経済の活力 夢提案【16】 神戸経済の活性化にチャレンジしましょう	住んでいる地域の駅前や商店街に活気が感じられると思う人の割合(%)	(H23) 37.2	24.5	33.1	26.0	↓
	住んでいる地域は商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合(%)	(H23) 16.5	11.0	8.3	9.0	↓
	住んでいる地域に「神戸らしさ」を醸し出す場所があると思う人の割合(%)	(H25) 56.7	51.7	50.8	50.9	↓

※ 原則、平成23年(度)を基準年とし、最新データとの比較を増減欄に矢印で表示した。ただし、1%以内の変動は、増減なしとした。

1 地勢

総面積は 557.02 km²と県総面積の 6.6%を占め、県内の市町のうち第 3 位となっている。市域の特徴として六甲山系によって南北に二分されているが、南部は東西に細長く高密度な市街地を形成しており、北西部は大規模なニュータウンがみられるものの、豊かな山麓、田園地帯を残している。

奈良時代には既に港が存在し、12 世紀には「大輪田泊」が築かれ、宋・明をはじめ、諸外国との貿易拠点として栄えてきた。また、明治維新以降は、外国人居留地などを通して、スポーツ、文化などの異国情緒あふれるハイカラ文化が育ち、人・もの・情報が行き交う国際都市としても発展を遂げてきた。



2 自然環境

温暖・少雨が特徴の瀬戸内海式気候帯に属している。臨海部に比べ内陸部は海拔も高く、やや寒冷となっており、六甲山系は、低気圧や前線の前面で上昇気流を助長させ、豪雨をもたらすこともある。

3 人口

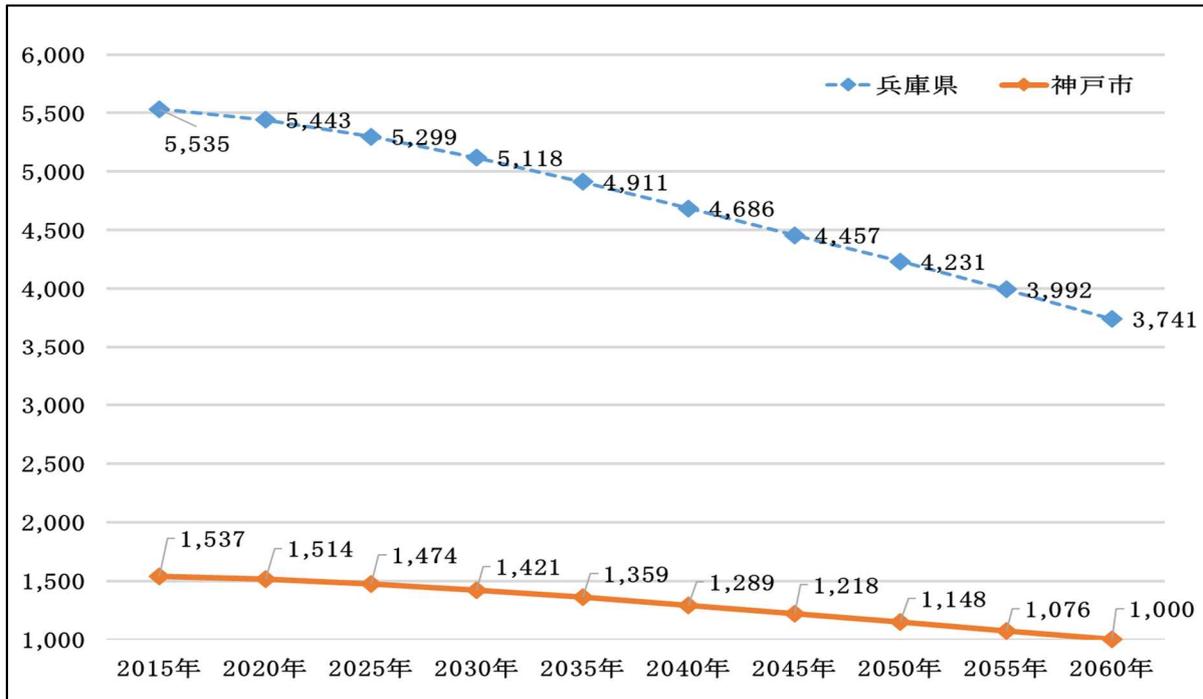
(1) 人口推移

人口は 1,511,393 人と、政令都市では、横浜市、大阪市、名古屋市、札幌市、福岡市、川崎市に次ぐ人口規模で、県全体の 27.9%の比率となっている。

人口の将来推計によると、現在の状況のまま推移するとすれば、一貫して減少傾向をたどり、2050 年頃には 1,148 千人と現在より 2.5 割程度減少すると予想されている。

市町名	面積	国勢調査		令和 3 年 4 月 1 日		差引増減	
		(平成 27 年 10 月 1 日現在)		現在 (B)		(B - A)	
		世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
神戸市	km ²	世帯	人	世帯	人	世帯	人
	557.02	705,459	1,537,272	728,049	1,511,393	22,590	△25,879

兵庫県及び神戸地域の人口推移



出典：兵庫県ビジョン課調べ

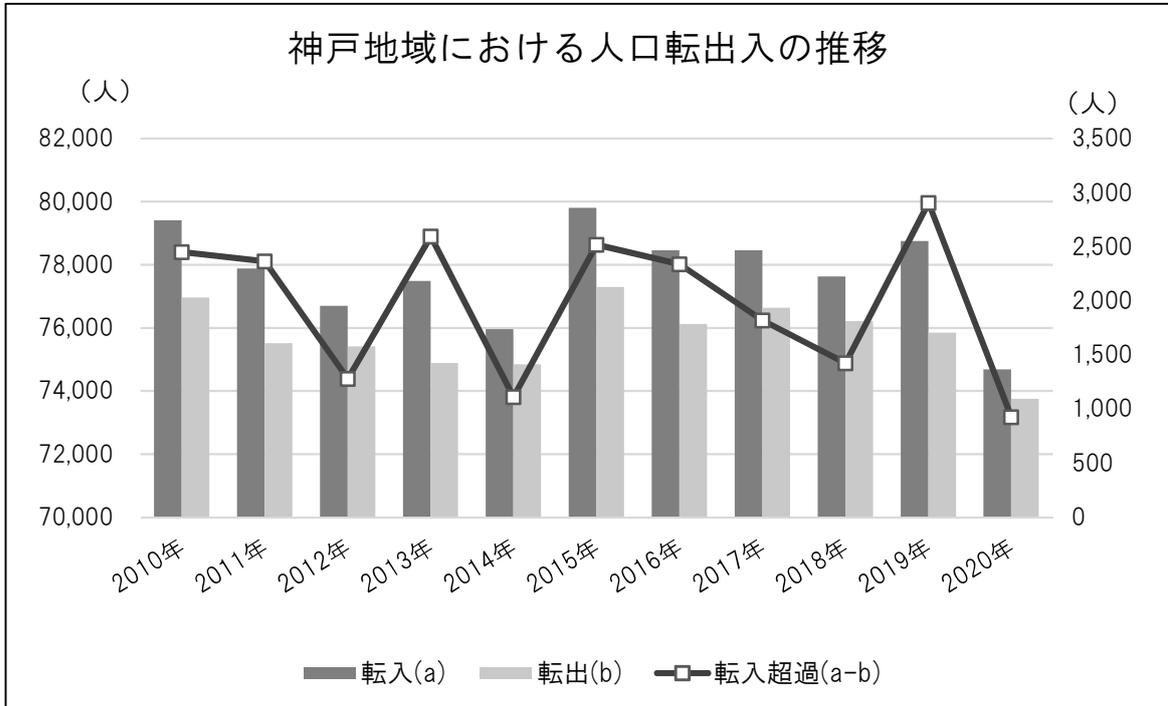
区別ごとに人口推計結果をみると、北区や西区と中央区との2050年における対2020年増加率には大きな差があり、将来的には人口の偏在化が予測される。

神戸地域における区別人口推計結果（千人）

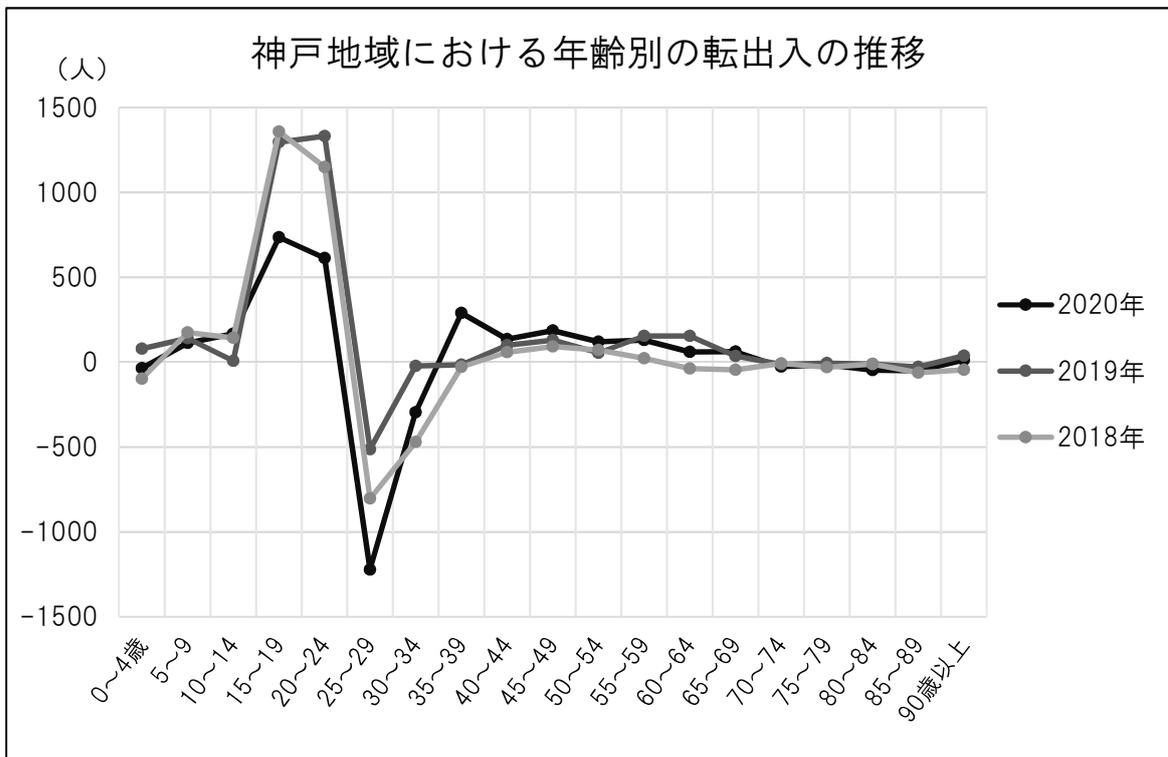
	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	2065年	2050年	2065年
							対2020年増加率	
兵庫県	5,443	5,118	4,686	4,231	3,741	3,486	-22.3%	-36.0%
神戸地域	1,514	1,421	1,289	1,148	1,000	921	-24.2%	-39.2%
東灘区	213	205	191	175	155	145	-17.8%	-31.9%
灘区	136	131	122	112	99	92	-17.6%	-32.4%
兵庫区	106	103	99	94	89	85	-11.3%	-19.8%
長田区	94	86	77	69	60	55	-26.6%	-41.5%
須磨区	157	142	124	107	90	81	-31.8%	-48.4%
垂水区	214	198	177	157	136	126	-26.6%	-41.1%
北区	210	185	155	127	100	86	-39.5%	-59.0%
中央区	143	151	150	145	137	132	1.4%	-7.7%
西区	240	221	193	163	133	119	-32.1%	-50.4%

出典：兵庫県ビジョン課調べ

神戸地域における人口転出入の推移をみると、2010年以降、転入超過が続いている。近年の人口転出入の推移を年齢別でみると、25歳から29歳の転出超過が拡大していることがわかる。



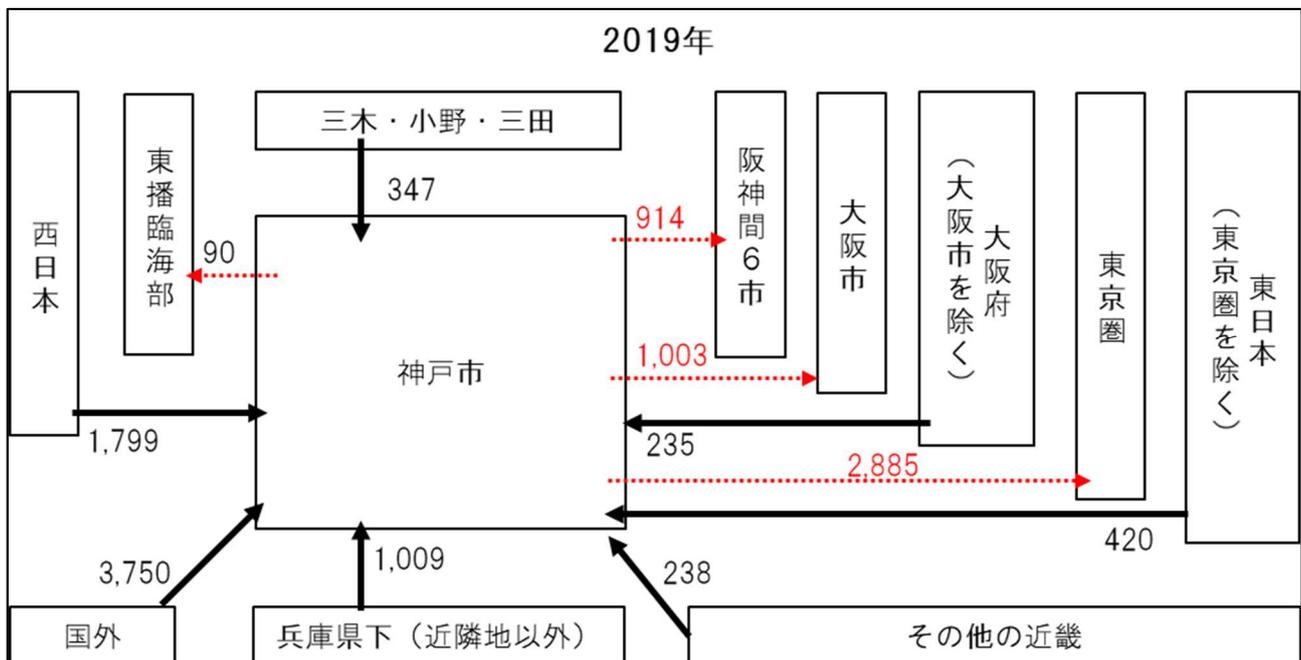
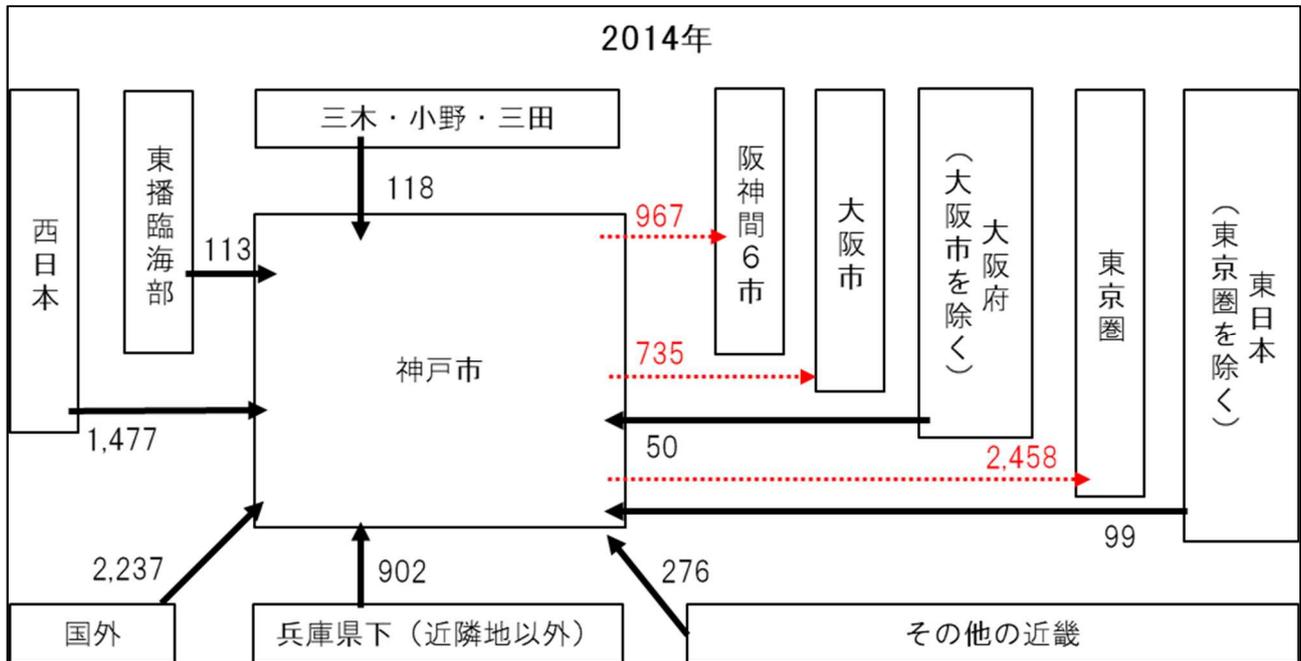
出典：神戸市 HP 「人口の動き（長期時系列）」



出典：神戸市 HP 「概要（人口の動き）」

地域別の転入超過数を見ると、東京圏や大阪市に対して大幅に転出超過になっており、2014年時点では転入超過だった東播臨海部は、2019年では転出超過となっている。

相手地域別転入超過数



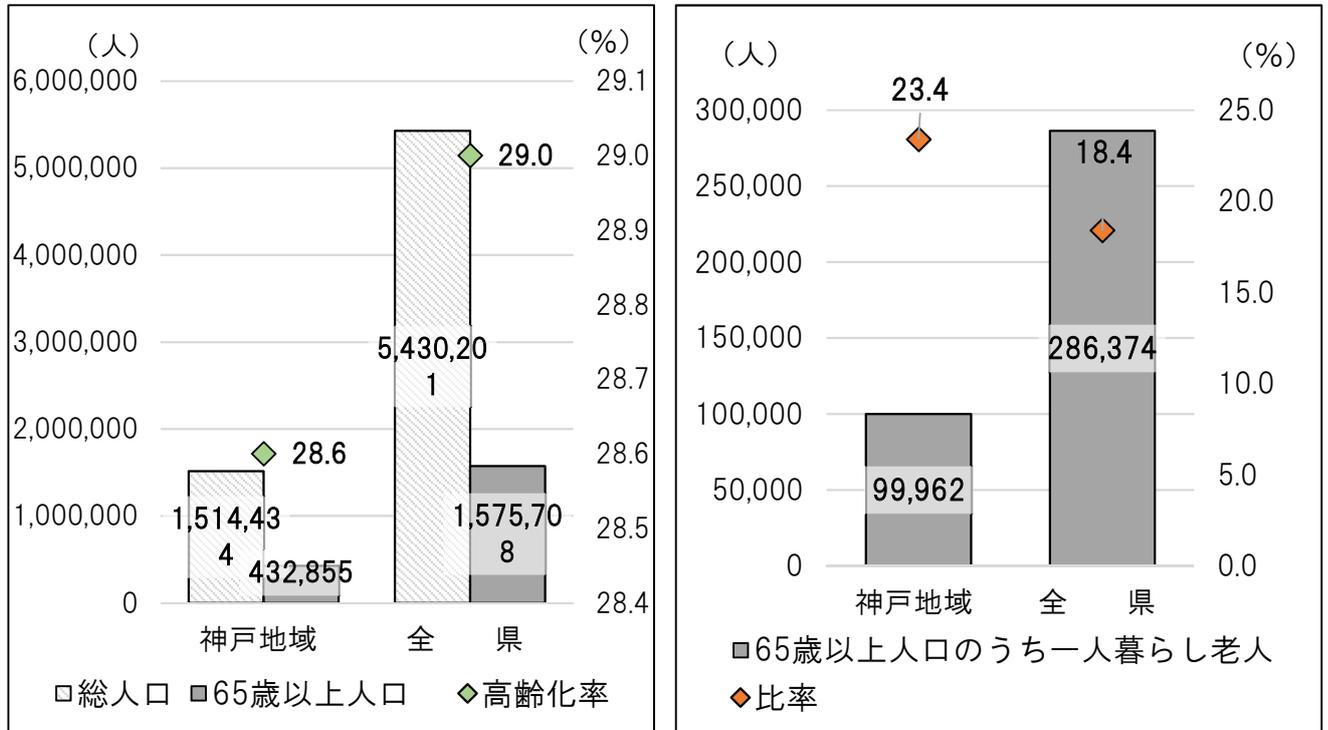
出典：神戸人口ビジョン（改訂版）

(2) 高齢化率

高齢化率（65歳以上の人口比率）は28.6%で、全県の29.0%を下回っている。

また、65歳以上人口に占める一人暮らし老人の割合は神戸地域で23.4%と県全体の18.4%を上回っている。

兵庫県及び神戸地域の高齢化の状況（令和3年）

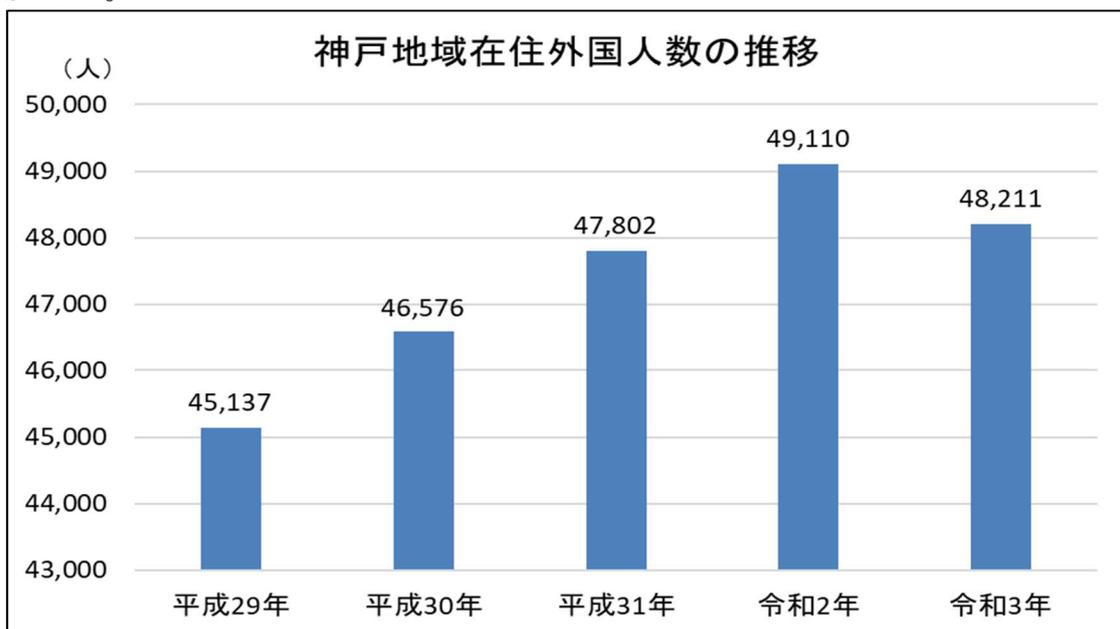


出典：兵庫県「高齢者保健福祉関係資料」

出典：総務省「平成27年国勢調査」

(3) 外国人

神戸地域在住の外国人数は、平成29年から増加傾向にあるが、新型コロナウイルスの影響もあり令和3年3月末時点は48,211人と、令和2年3月末の49,110人と比べてやや減少した。



出典：「データこうべ 月別各種統計表」

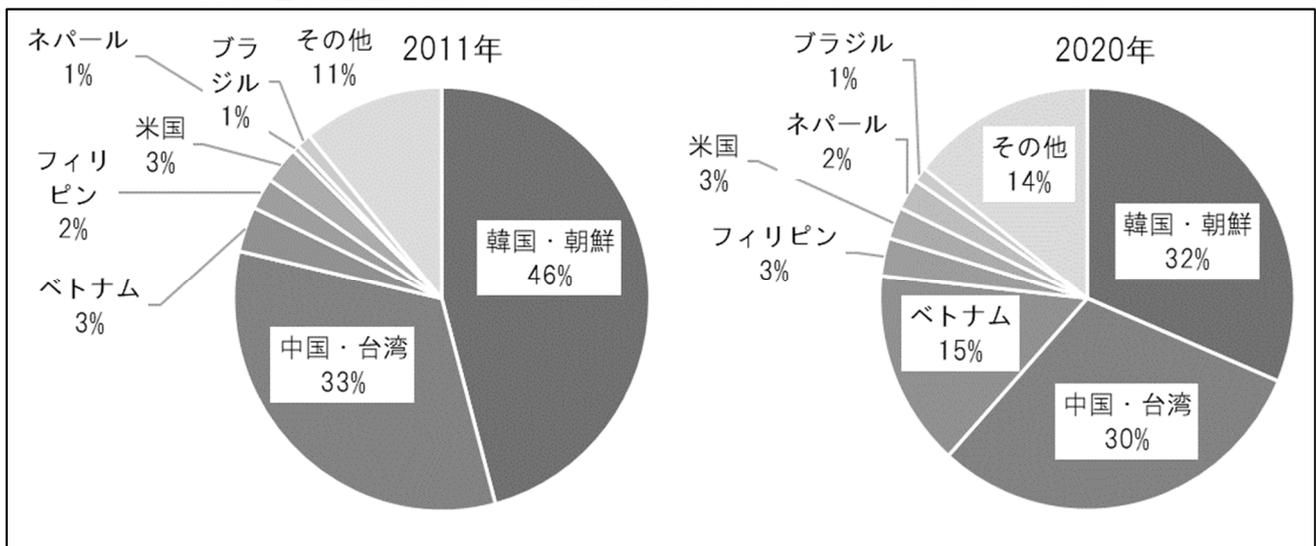
また、2011年と2020年の国籍別の神戸地域在住外国人数を比較すると、韓国、中国国籍が多くを占めている状況は変わらず、全体として増加傾向にある。特にベトナム、ネパール国籍が大きく増加しており、在留外国人の国籍の変化の一端がみられる。

神戸地域在住外国人の国籍構成（2011年と2020年）

	2011年 (人)	2020年 (人)	2011年→2020年	
			増加数 (人)	増加率 (%)
韓国・朝鮮	20,036	15,519	-4,517	-22.5
中国・台湾	14,338	14,956	618	4.3
ベトナム	1,510	7,446	5,936	393.1
フィリピン	1,056	1,447	391	37.0
米国	1,236	1,203	-33	-2.7
ネパール	224	1,169	945	421.9
ブラジル	497	561	64	12.9
その他	4,808	7,114	2,306	48.0
総数	43,705	49,415	5,710	13.1

出典：「県内在留外国人数一覧」兵庫県国際交流課調べ

神戸地域在住外国人の国籍構成割合の比較（2011年と2020年）

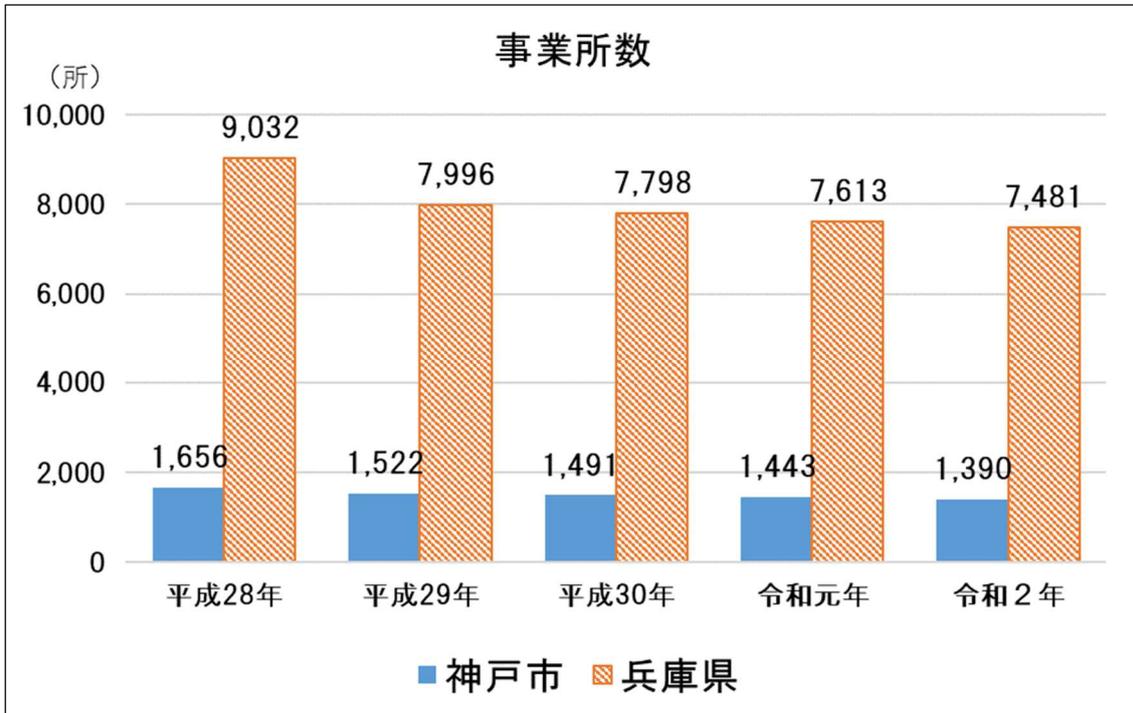


出典：「県内在留外国人数一覧」兵庫県国際交流課調べ

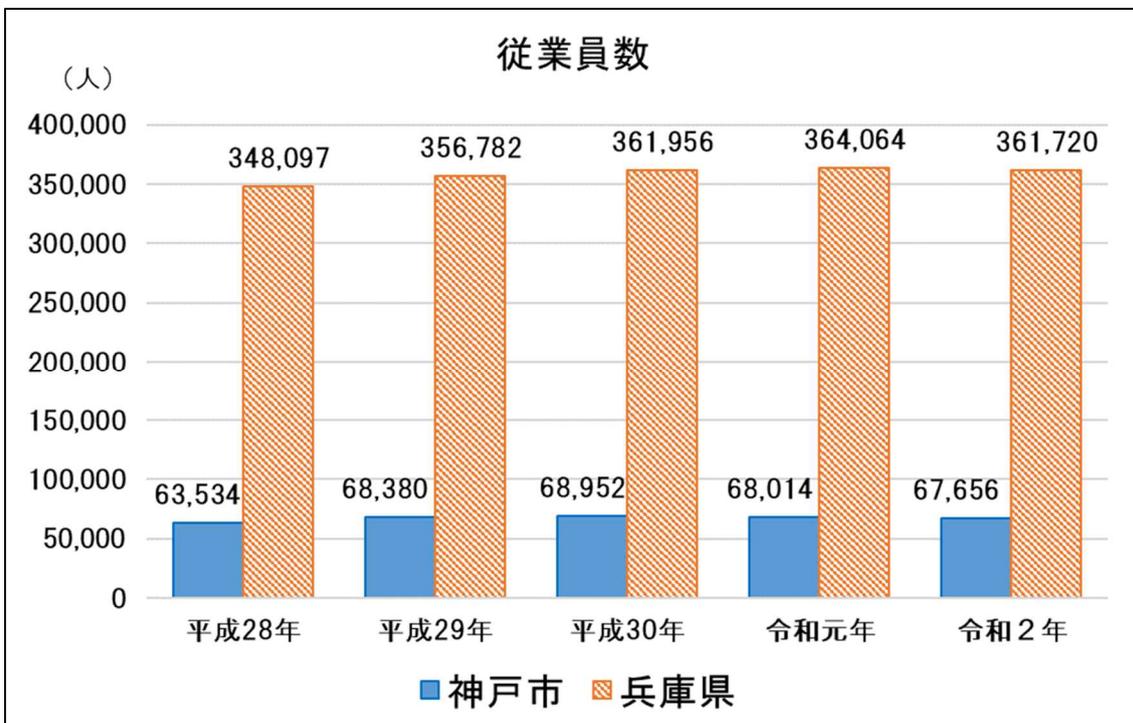
4 産業

(1) 事業所数（製造業）の推移

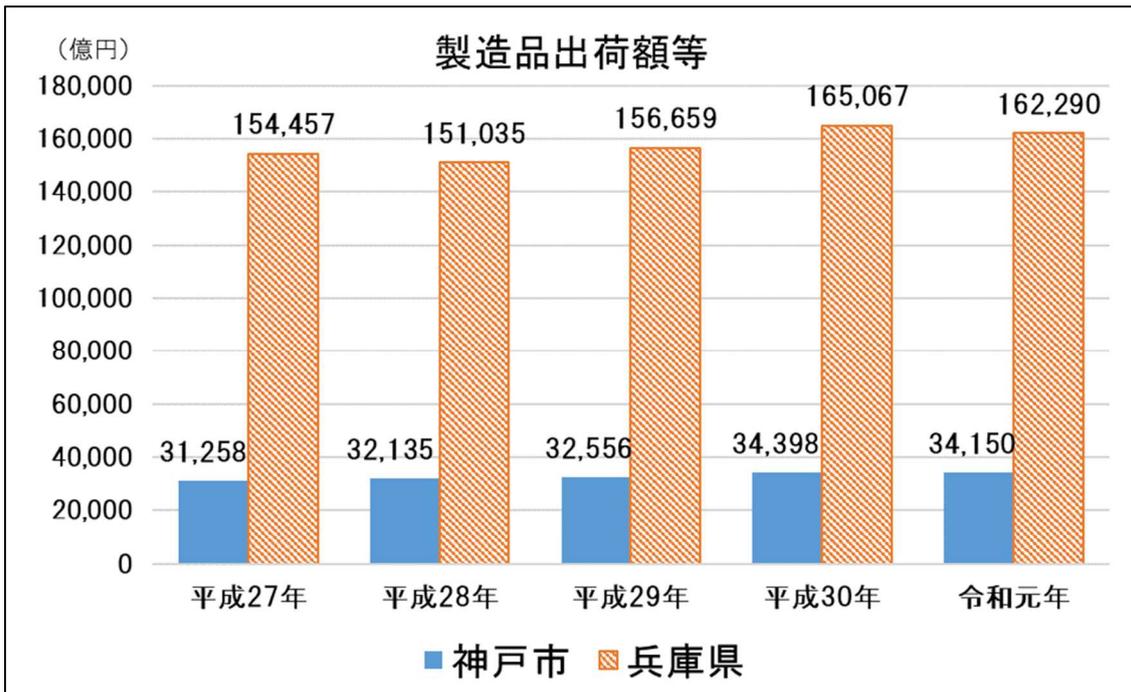
神戸地域における令和2年の製造業の事業所数は1,390事業所で、従業員数は67,656人（全県の18.7%）、製造品出荷額等は34,150億円（全県の21.0%）となっている。食料品、輸送用機械、はん用機械で製造品出荷額等のおよそ5割を占めている。



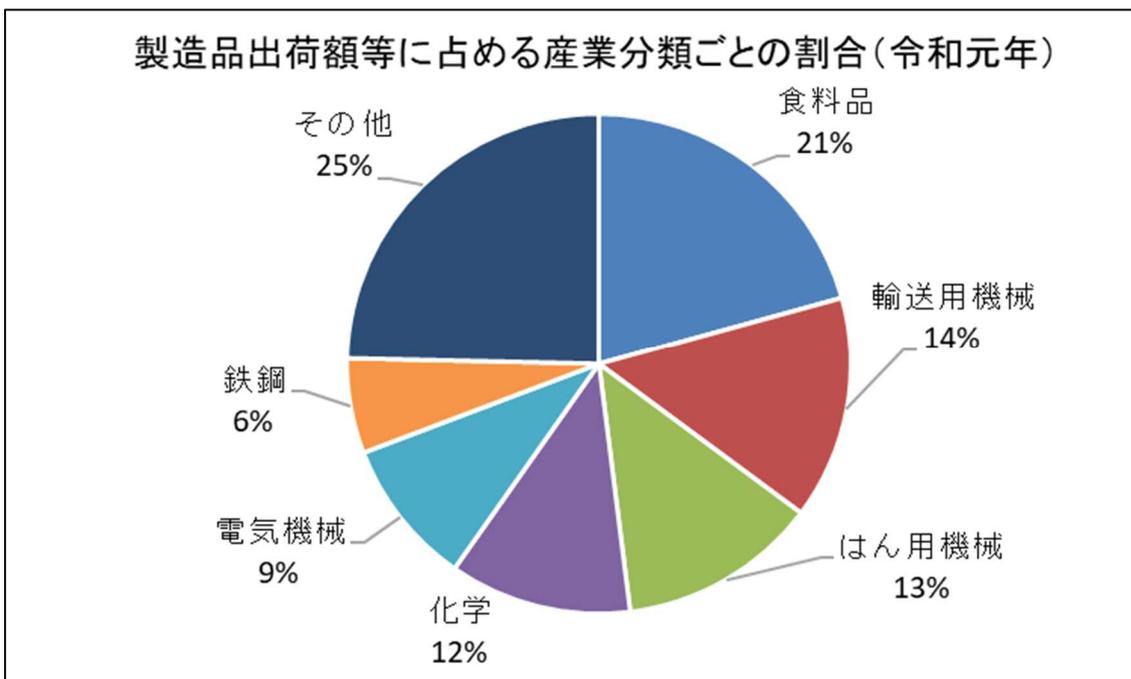
出典：「2020年工業統計調査結果（速報）」



出典：「2020年工業統計調査結果（速報）」



出典：「2020年工業統計調査結果（速報）」



出典：「2020年工業統計調査結果（速報）」

（2）主な地場産業、特産物

神戸地域の特色ある産業として、神戸アパレル、ケミカルシューズ、真珠加工等が挙げられる。（「地場産業一覧（平成30年数値）」兵庫県工業振興課調べ）

(3) 農業

令和元年度の神戸地域における現況耕地面積は、田 4,100ha（全県の 6.1%）、畑 304ha（全県の 4.8%）である。農家数は 4,052 戸（全県の 6.0%）となっており、大消費地を後背に抱えることを背景に、野菜、花き、果実、畜産等活発な農業生産活動が展開されている。また、農業産出額をみると、果実は 101 億円で県内市町の 1 位、畜産は 432 億円で 5 位（肉用牛は 262 億円で 1 位）であり、産出額計では 146 億円と県内 2 位となっている。

農家数と現況耕地面積

年 度	農 家 数 (戸)	耕 地 面 積 (ha)	
		田	畑
令和元年度	4,052	4,100	303

出典：「2020 年農林業センサス」、「近畿農林水産統計年報」（平成 30 年～令和元年）

平成 30 年神戸市農業産出額（推計）品目別内訳

品目	野菜	果実	工芸農作物	畜産
産出額（億円）	562	101	1	432
県内市町順位	2	1	5	5

出典：「平成 30 年市町村別農業産出額（推計）」

平成 30 年県内市町村別農業産出額（推計）上位 5 市町

市町村	農業産出額 (千万円)	耕 種	
		耕 種	畜 産
南あわじ市	2,152	1,559	593
神戸市	1,468	1,036	432
豊岡市	1,180	540	640
丹波市	812	644	168
上郡町	706	88	618

出典：「平成 30 年市町村別農業産出額（推計）」

(4) 漁業

平成 30 年の魚種別漁獲量をみると、神戸市は 2,691t で県内市町の 5 位の漁獲量となっており、いかなごをはじめ、しらすを含めたいわし類やたい類が多く獲れている。

平成 30 年県内魚種別漁獲量（上位 5 市町）

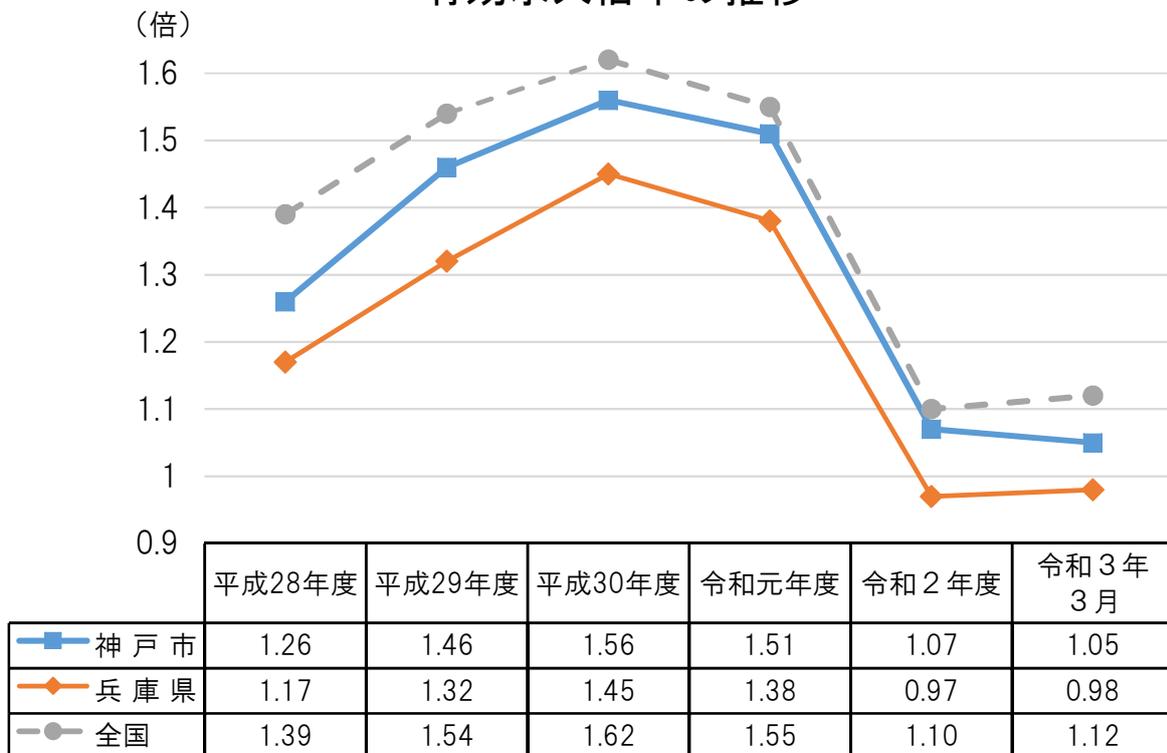
市町村	漁獲量 (t)	魚種別			
		いわし類	ひらめ・かれい類	たい類	その他
姫路市	10,589	5,540	444	126	4,479
淡路市	7,639	x	204	409	7,026
香美町	4,894	16	489	13	4,376
新温泉町	4,356	0	355	17	3,984
神戸市	2,691	1,478	132	267	814

出典：「海面漁業生産統計調査－平成 30 年産市町村別データ」

(5) 雇用

令和 2 年度の有効求人倍率は 1.07 倍で、全県の 0.97 倍を上回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国や全県と同様に平成 30 年度をピークに大幅に低下している。

有効求人倍率の推移



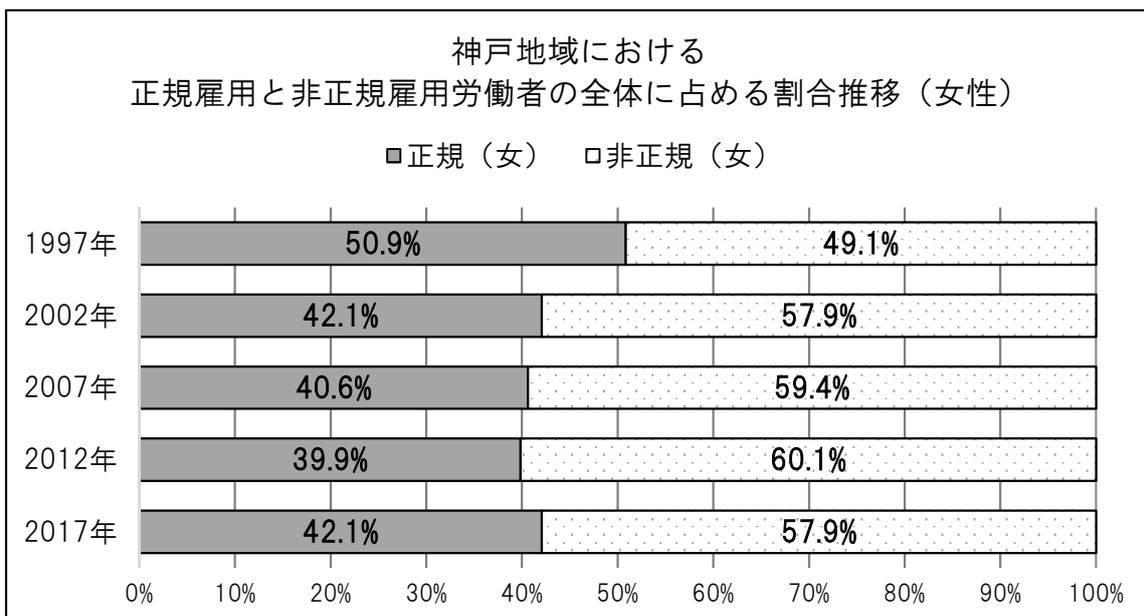
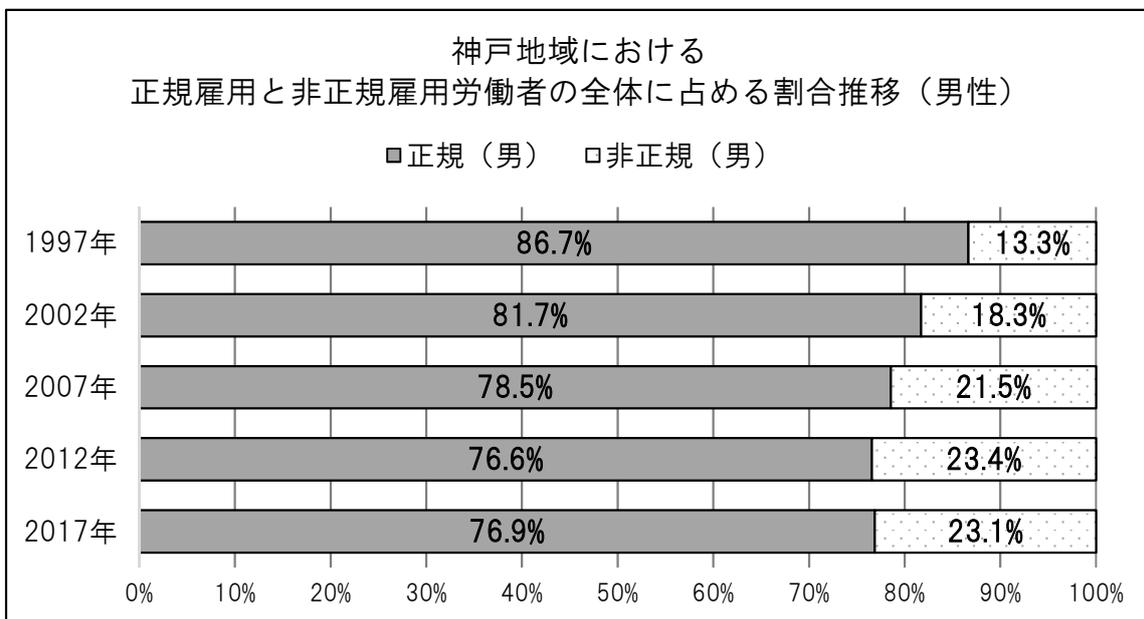
出典：管内各公共職業安定所調査

雇用状況についてみると、パート等の非正規雇用労働者数が継続して増加している。また、全雇用労働者に占める非正規雇用労働者の割合は、1997年の28.1%と比べ、2017年で39.2%と増加傾向にある。

神戸地域における正規雇用労働者と非正規雇用労働者の推移（千人）

	1997年	2002年	2007年	2012年	2017年
非正規雇用労働者	158	200	239	248	262
正規雇用労働者	405	369	375	370	406
全体に占める 非正規雇用の割合	28.1%	35.1%	38.9%	40.1%	39.2%

出典：「平成29年就業構造基本調査」総務省



出典：「平成29年就業構造基本調査」総務省

5 交通

(1) 港湾

令和元年の神戸港入港船舶隻数は、船舶 31,305 隻数（うち外航船 6,634 隻数）と平成 30 年度に比べて減少している。また、貨物の総取扱量も 94,009 千トンと平成 30 年度に比べて減少しているが、輸入量は微増している。

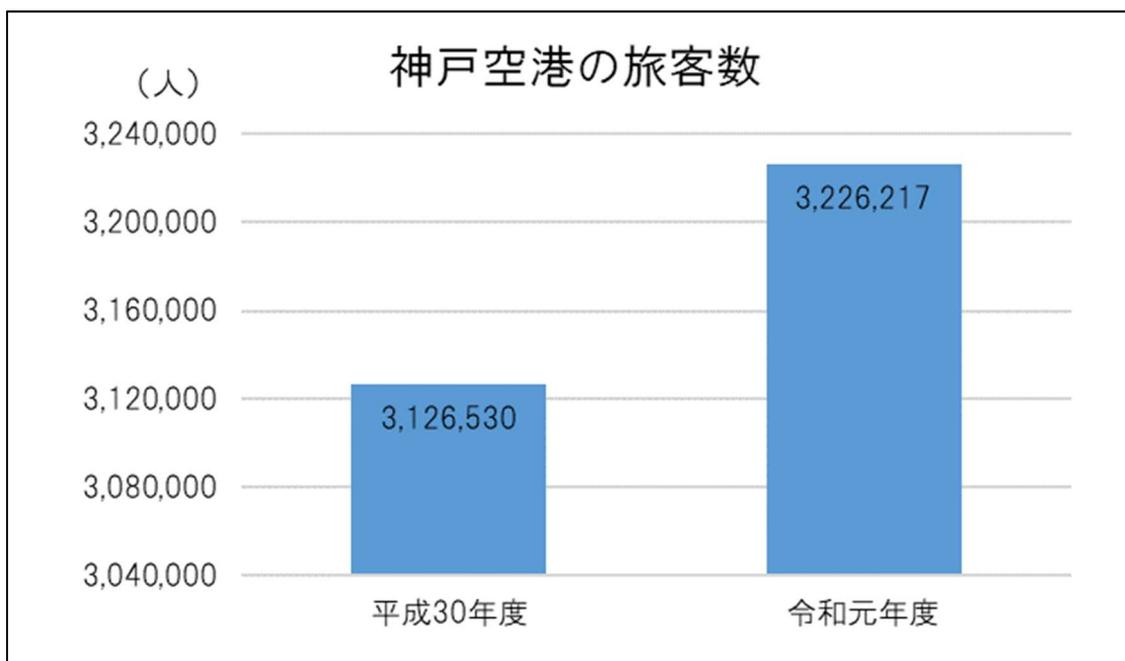
年	船 舶			
	総入港隻数		うち外航船	
	隻数	千総トン数	隻数	千総トン数
平成 30 年 (B)	32,957	189,183	6,750	144,025
令和元年	31,305	188,008	6,634	141,696
(B) / (A) (%)	95	99.4	98.3	98.4

年	貨 物			
	総取扱	うち外貿 (千トン)		
	貨物量 (千トン)	輸出	輸入	計
平成 30 年 (B)	95,486	23,708	28,453	52,162
令和元年	94,009	22,927	28,586	51,514
(B) / (A) (%)	98.5	96.7	100.5	98.8

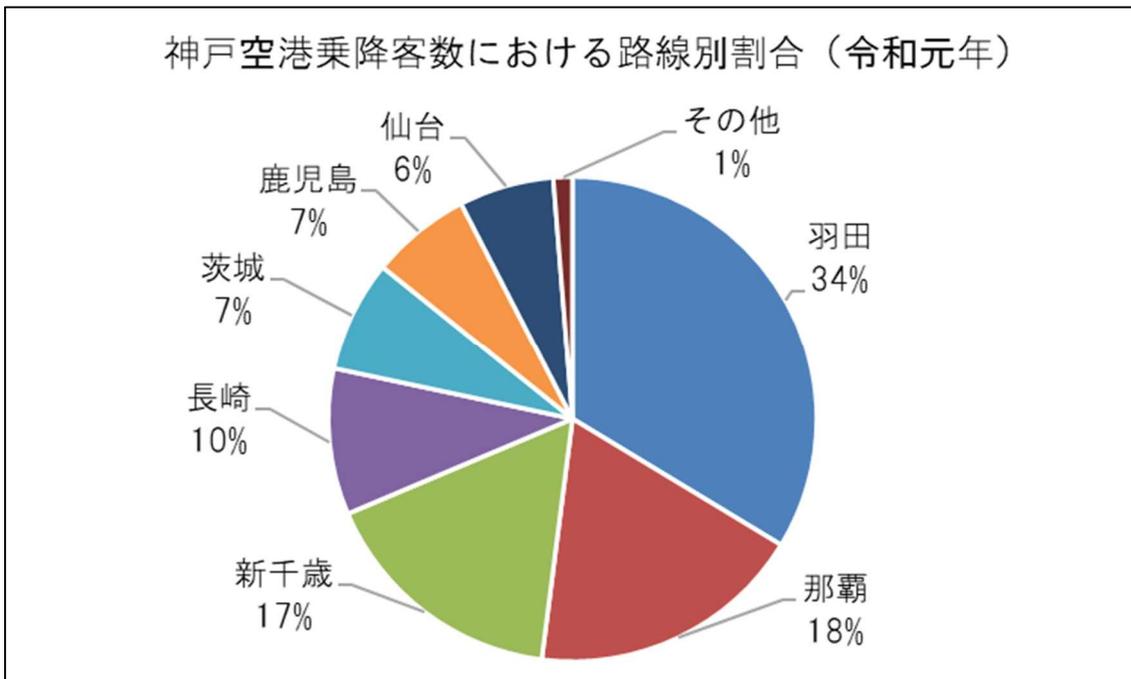
出典：「第 97 回神戸市統計書 令和 2 年度版」

(2) 航空

令和元年度の神戸空港の利用状況は、3,226 千人と平成 30 年度に比べて増加しており、路線別の乗降客数をみると、羽田、那覇、千歳で 7 割を占めている。



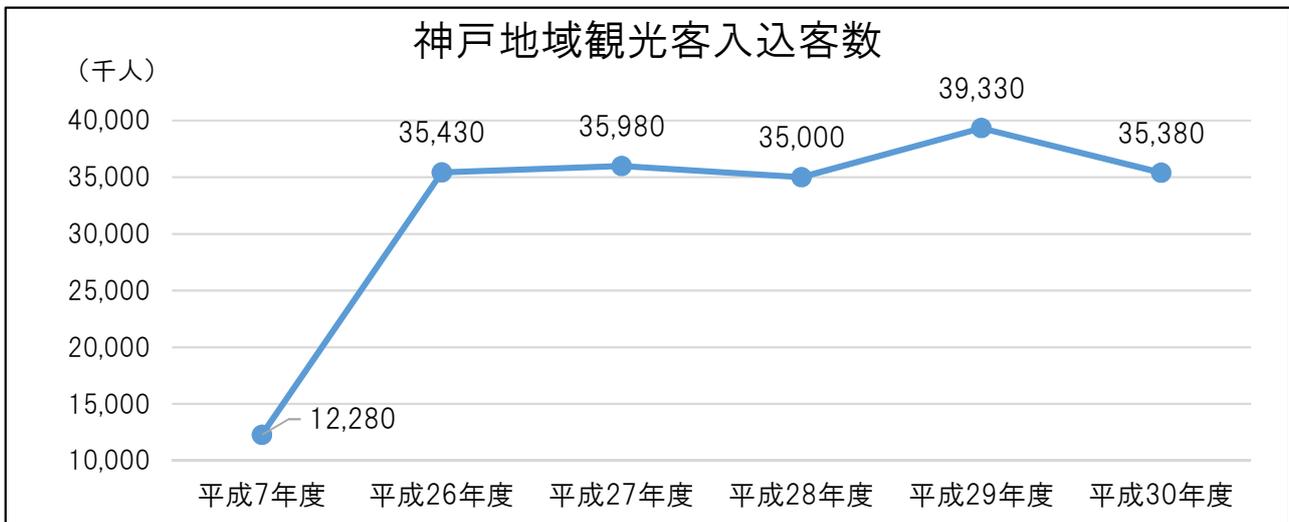
出典：「第 97 回神戸市統計書 令和 2 年度版」



出典：「第97回神戸市統計書 令和2年度版」

6 観光

令和元年度の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、ゴールデンウィークが10日間の大型連休となったことやラグビーワールドカップ2019開催による集客により、前年度と比較して+4.0万人と0.1%増加した。



出典：「令和元年度兵庫県観光客動態調査報告書」

主な観光地名	フルーツ・フラワーパーク	北野工房のまち	須磨海浜水族園	王子動物園	兵庫県立美術館	神戸布引ハーブ園	青少年科学館
令和元年度 (千人)	1,275	1,213	1,135	1,109	562	416	405
対前年度比 (%)	99.8	101.6	102.2	98.2	58.6	110.0	104.2

出典：「令和元年度兵庫県観光客動態調査報告書」

7 福祉医療

令和元年の神戸地域における保健医療機関の状況として、病院は109（全県の31.3%）、一般診療所1,602（全県の31.3%）、歯科診療所943（全県の31.6%）の医療機関がある。

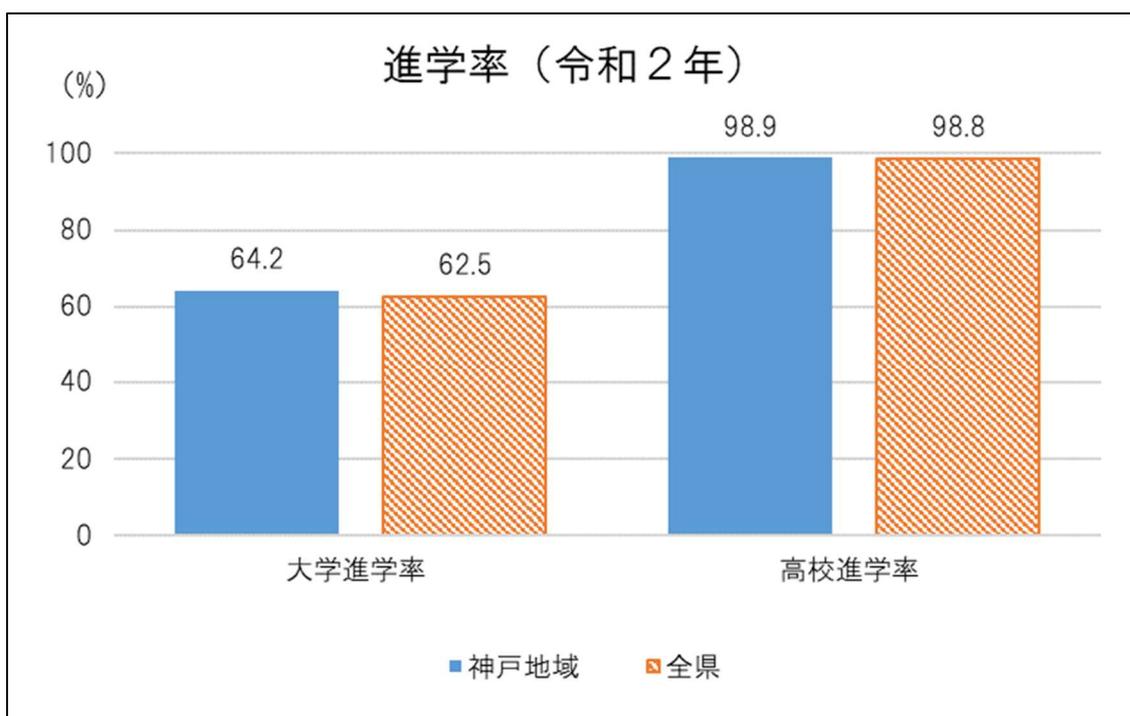
	病院			一般診療所		
	施設数	人口 10万対 施設数	1施設 当たり人口 (単位 百人)	施設数	人口 10万対 施設数	1施設 当たり人口 (単位 百人)
神戸	109	7.2	139.7	1,602	105.2	9.5
全県	348	6.4	157.1	5,125	93.8	10.7

	歯科診療所		
	施設数	人口 10万対 施設数	1施設 当たり人口 (単位 百人)
神戸	943	61.9	16.1
全県	2,986	54.6	18.3

出典：「令和元年医療施設調査」兵庫県健康福祉情報事務センター

8 学習教育

令和2年の神戸地域の進学率をみると、大学等進学率、高校進学率ともに県全体の進学率をわずかに上回っている。



出典：「令和2年度学校基本調査」